

加古川市文化財年報

第1号

平成27(2015)年度

平成30(2018)年3月

加古川市教育委員会

『加古川市文化財年報第1号平成27(2015)年度』 正誤表

以下の間違いがありましたので、お詫びして訂正いたします。

頁・行	誤	正
15頁・12行	…された(図14- <u>1</u> ・ <u>2</u>)。	…された(図14- <u>1</u>)。
15頁・21行	…された(図14- <u>3</u>)。	…された(図14- <u>2</u> ・ <u>3</u>)。
18頁・9行	…平成 <u>28</u> 年度の試掘調査…	…平成 <u>27</u> 年度の試掘調査…

加古川市文化財年報

第1号

平成27(2015)年度

平成30(2018)年3月

加古川市教育委員会

目次

目次・例言

口絵（カラー写真）

第1章 調査研究	1
調査報告1 大塚遺跡 確認調査・工事立会報告	6
調査報告2 溝之口遺跡 確認調査報告	10
調査報告3 神野遺跡 試掘調査報告	14
調査報告4 報恩寺 徳川将軍領地朱印状 概要調査報告	21
調査報告5 志方八幡神社 楽太鼓 概要調査記録	24
記録1 特別天然記念物 オオサンショウウオ 保護活動記録	26
記録2 志方町永室 構の石棺 移設記録	28
第2章 文化財の保護と活用	29
新市指定文化財1 西之山地蔵堂の六地藏石仏	30
新市指定文化財2 報恩寺の四尊石仏	31
第3章 西条古墳群史跡整備事業	36
第4章 文化財審議委員会	37
第5章 文化財関係の事務処理	38
第6章 組織、予算・決算、管理	50
抄録	

例言

- 1 本書は、平成27年度に加古川市教育委員会が実施した文化財保護のための調査及び活動を記録した報告書である。
- 2 本書の作成は、加古川市教育委員会事務局 教育指導部 文化財調査研究センターが行った。編集は宮本佳典、平尾英希が担当した。なお、執筆は各担当者が分担し、文末に執筆者名を明記している。
- 3 出土遺物の整理、実測、製図にあたっては、平尾のほか、学芸員浅井達也、埋蔵文化財専門員西岡巧次、林弘幸（大手前大学大学院生）が担当した。――
- 4 本書掲載の地図は、加古川市発行の都市計画図を一部改変し、使用した。縮尺等は各地図に示したとおりである。
- 5 本書で報告した出土遺物、実測図、写真等は加古川市教育委員会が保管している。

【口絵／写真1】



六地藏石仏（西之山地蔵堂）

【口絵／写真2】



四尊石仏（報恩寺）

第1章 調査研究

総説

加古川市教育委員会文化財調査研究センターでは、文化財保護のための調査を実施している。

(1) 埋蔵文化財調査

埋蔵文化財の調査については、①開発事業に伴い破壊される遺構・遺物を記録保存することを目的とした発掘調査3件、②周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）内での開発事業に伴い破壊される恐れのある遺構・遺物の状況を確認することを目的とした確認調査等38件、③周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）外での開発事業に伴い事前に埋蔵文化財の有無を把握することを目的とした試掘調査及び分布調査等6件を実施した（表1）。

発掘調査では、溝之口遺跡及び美乃利遺跡の2件が平成13（2001）年度から加古川市が実施している市道中津水足線外道路改良事業に伴うもので、溝之口遺跡1件が民間開発の宅地造成に伴うものである。

これらのうち、中津水足線外道路改良事業に伴う溝之口遺跡・美乃利遺跡の発掘調査は、平成26（2014）年度にも一部調査を実施しており、平成27（2015）年度はその2年目にあたる。この調査では、弥生時代中期から後期にかけての竪穴建物跡や溝、また周溝墓の可能性のある溝の一部が検出されたほか、奈良時代から平安時代にかけての溝や井戸などが検出され、周溝墓に伴うと考えられる弥生土器の一括品や「福器」と墨書された須恵器が出土するなど、多くの成果が得られている。

民間開発の宅地造成に伴う溝之口遺跡の発掘調査では、調査面積が120㎡とかなり限定されていたものの、おもに弥生時代中期から後期にかけての水田跡や溝などが検出された。弥生土器片や須恵器片などの遺物が出土したが、出土量は全体に少なかった。

なお、発掘調査3件のうち、宅地造成に伴う溝之口遺跡の発掘調査については、平成29年12月に『溝之口遺跡発掘調査報告書Ⅲ』（加古川市文化財調査報告27）として、道路建設に伴う溝之口遺跡と美乃利遺跡の発掘調査については、合わせて平成30年3月に『溝之口遺跡発掘調査報告書Ⅳ・美乃利遺跡発掘調査報告書Ⅰ』（加古川市文化財調査報告29）として刊行した。

確認調査及び試掘調査等では、農業基盤整備事業の雁戸井土地改良区ほ場整備事業に伴い八幡町中西条・上西条・下村地区において調査を行ったほか、下水道等の公共工事、個人住宅や宅地造成等の民間開発に伴い周知の埋蔵文化財包蔵地内外で調査を実施した。

ほ場整備事業に伴う確認調査及び試掘調査では、事業対象地に設定した112箇所の調査区のうち50箇所で溝や土坑、ピットなどの遺構が検出され、おもに土師器、須恵器、瓦などの遺物が出土した。今回の調査によって遺構・遺物が確認され、ほ場整備事業によって破壊されるところについては、平成28（2016）年度以降に発掘調査を継続して実施している。

本年報では、これらの調査のうち、遺構・遺物が確認されたものを中心に、以下3件の調査成果について報告する（図1）。

- 調査報告1 大塚遺跡 確認調査・工事立会報告
- 調査報告2 溝之口遺跡 確認調査報告
- 調査報告3 神野遺跡 試掘調査報告

(2) その他の文化財調査

埋蔵文化財を除くその他の調査については、市指定文化財指定に係る石造品等の事前調査3件、所有者等からの照会及び情報提供に伴い保護の必要性を判断するための現状把握調査5件を実施した。

市指定文化財指定に係る事前調査は、平成28年2月25日に指定文化財となった「六地藏石仏」（西之山町内会）及び「四尊石仏」（報恩寺）に関係した事前調査、並びに某所オハツキイチョウの現況確認である。市指定文化財となった2件については「第2章文化財の保護と活用／1指定・登録文化財」に要点を記している。某所オハツキイチョウについては、ほとんど落葉していたためか目立った特徴が確認できなかった。

その他の現状確認調査等は、報恩寺の徳川将軍領地朱印状、市内の河川で保護した特別天然記念物オオサンショウウオ、志方八幡神社の楽太鼓、移転された構の石棺、市指定文化財「石井の清水」のモルタル破損の確認、記録に及ばない市外個人所有古書画の確認である。その他、指定文化財の整備及び活用等に係る巡視6件、指定文化財の現状確認のための巡視2件を行った。

これらのうち、今後の文化財保護活動のため、本年報の各論に掲載することが適当であると判断した調査報告及び記録は以下のとおりである。

調査報告4 報恩寺 徳川将軍領地朱印状 概要調査報告

調査報告5 志方八幡神社 楽太鼓 概要調査記録

記録1 特別天然記念物 オオサンショウウオ 保護活動記録

記録2 志方町永室 構の石棺 移設記録

(宮本・平尾)

表1 平成27年度実施発掘調査及び確認調査、試掘調査一覧

発掘調査

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
1	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口・美乃利地内	8月11日～ 11月26日	800㎡	周溝墓?・溝・ピット、縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器	中津水足線外 道路改良事業
2	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町美乃利・大野地内	11月24日～ 3月18日	2800㎡	竪穴建物跡・溝・井戸・土坑・ピット、弥生土器・土師器・須恵器・瓦・石器・鉄製品	中津水足線外 道路改良事業
3	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口37番2・3・5 ～7、39番、40番1	1月13日～ 2月8日	120㎡	溝・ピット・水田跡、弥生土器・須恵器・石器・鉄製品	

試掘・確認調査

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
1	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	尾上町口里555番1	4月8日	8㎡	遺構・遺物なし	
2	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	野口町坂元1070番2	4月16日	2㎡	遺構・遺物なし	
3	尾上構居跡 城館跡 中世	尾上町長田312番1	4月16日	4㎡	遺構・遺物なし	
4	今福遺跡 集落跡 弥生	尾上町今福341番1・8、342番	4月22日	32㎡	遺構なし、土師器・須恵器	

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
5	加古川町 栗津地区	加古川町栗津757番	4月23日	4㎡	遺構・遺物なし	試掘調査
6	東神吉町 西井ノ口地区	東神吉町西井ノ口826番1ほか	5月13日	10㎡	遺構・遺物なし	試掘調査
7	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町美乃利・大野地内	5月13～15、 19日	42㎡	溝・土坑・ピット、弥生土器・土師器・ 須恵器	確認調査後、 発掘調査
8	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町大野590番1	5月20日	20㎡	遺構・遺物なし	
9	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町大野713番1	5月21・22 日	22㎡	水田跡、遺物なし	
10	今福遺跡 集落跡 弥生	尾上町今福346番1、347番9	5月26日	12㎡	遺構・遺物なし	
11	今福遺跡 集落跡 弥生	尾上町今福338番の一部、341番 6の一部	6月4日	12㎡	遺構・遺物なし	
12	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	野口町良野35番1	6月9～11、 18・19、7 月21日	123㎡	溝・土坑・ピット、土師器・須恵器・瓦 器・磁器・鍛冶滓	
13	野口町 長砂地区	野口町長砂361番15・16の各一 部、1365番1、1366番	6月29日	8㎡	遺構・遺物なし	試掘調査
14	尾上遺跡 集落跡 弥生～古墳	尾上町長田280番3・23・34、 251番6	7月7日	3.25㎡	遺構・遺物なし	
15	古大内遺跡 その他の遺跡 奈良	野口町古大内422番6	7月8日	8㎡	遺構・遺物なし	
16	観音寺城跡 城館跡 中世	志方町志方町1109番	7月23日	4㎡	遺構・遺物なし	
17	古大内遺跡 その他の遺跡 奈良	野口町古大内450番1・4	7月24日	6㎡	遺構・遺物なし	
18	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口41番7	7月27日	4㎡	ピット、弥生土器	
19	具平塚遺跡 散布地 弥生	野口町良野518番6、522番32、 542番28・64	8月8日	8㎡	遺構なし、弥生土器・須恵器	
20	野口廃寺 社寺跡 奈良	野口町野口352番3、353番、 350番10	8月18日	12㎡	遺構・遺物なし	
21	加古川町 河原地区	加古川町河原214番ほか	8月24日	8㎡	遺構・遺物なし	試掘調査
22	長砂遺跡 集落跡 弥生	野口町長砂755番1	8月26日	3㎡	遺構・遺物なし	
23	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町美乃利112番5	8月27日	3㎡	遺構・遺物なし	
24	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	東神吉町西井ノ口229番10	9月10日	4㎡	遺構・遺物なし	
25	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口116番6	9月14日	17.25㎡	遺構・遺物なし	

番号	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査概要	備考
26	高田構跡跡 城館跡 中世	神野町神野979番地先	9月16・18 日	14㎡	遺構・遺物なし	
27	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口37番2・3・5 ～7、39番、40番1	9月25日	10㎡	溝・土坑、弥生土器・土師器・須恵器	確認調査後、 発掘調査
28	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	尾上町口里524番1・2	10月6日	8㎡	遺構・遺物なし	
29	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	東神吉町神吉1034番4ほか	10月13日	4.8㎡	遺構・遺物なし	
30	観音寺城跡 城館跡 中世	志方町志方町1071番4・8	10月20日	8㎡	遺構・遺物なし	
31	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	東神吉町砂部354番16	10月22日	4㎡	遺構・遺物なし	
32	今福遺跡 集落跡 弥生	尾上町今福355番、358番ほか	10月23日	8㎡	遺構・遺物なし	
33	野口町 良野地区	野口町良野53番1	11月4日	12.2㎡	遺構・遺物なし	試掘調査
34	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町美乃利113番1ほか	11月18・19 日	24㎡	溝・土坑、弥生土器・須恵器	
35	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	野口町坂元北二丁目26番	12月1日	12㎡	遺構・遺物なし	
36	砂部遺跡 集落跡 縄文～奈良	東神吉町神吉547番8の一部	12月15日	3.4㎡	遺構・遺物なし	
37	八幡町中西条・ 上西条・下村 地区	八幡町中西条・上西条・下村地 内	12月24日～ 2月19日	448㎡	溝・土坑・ピット、弥生土器・土師器・ 須恵器・瓦	試掘・確認調 査後、 発掘調査
38	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口400番1	1月14日	4㎡	遺構・遺物なし	
39	神野町 西条地区	神野町西条1059番1・2、1060 番、1061番	2月8日、3 月7・8日	131㎡	溝・土坑、土師器・須恵器・円筒埴輪・ 瓦	
40	北在家遺跡 集落跡 弥生～古墳	野口町良野409番1	2月9日	4㎡	遺構なし、土師器・須恵器	
41	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	加古川町溝之口129番1ほか、 里道	2月9日	16.5㎡	遺構・遺物なし	
42	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	東神吉町砂部354番21	2月17日	4㎡	遺構なし、須恵器	
43	加古川城跡 城館跡 中世	加古川町本町312～314番	2月18日	3㎡	遺構・遺物なし	
44	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	加古川町大野862番の一部、863 番5の一部	3月2日	16㎡	遺構なし、弥生土器	

註1 試掘・確認調査における調査期間には確認調査の期間のほか、その後に実施した工事立会の期間も含む。



各番号は本書報告番号に対応

0 5000m S=1/100000

図1 平成27年度実施確認調査、試掘調査及びその他の調査（本書報告分）位置図

調査報告 1 大塚遺跡 確認調査・工事立会報告

調査場所 加古川市野口町良野35番1

調査期間 平成27(2015)年6月9～19日(確認調査)、7月21日(工事立会)

調査面積 123㎡(確認調査)

1 調査に至る経緯

野口町良野35番1において宅地造成工事及び個人住宅兼店舗の建設工事が予定された(図2)。当該地は別府川左岸の沖積平野に所在する大塚遺跡の南端部に位置しており、北東約10mの隣接地では中世の掘立柱建物跡や溝などが検出されている(久保編2016)。今回の工事予定地においても遺構が検出されることが想定されたため、開発事業者と協議を行い、確認調査を実施することになった。また、確認調査後、擁壁工事部分において工事立会を行ったため、その結果についてもあわせて報告する。

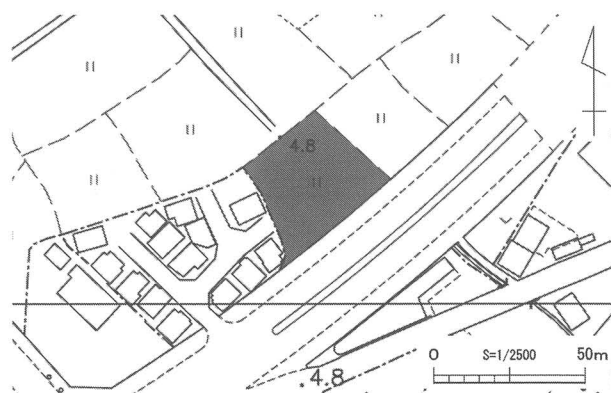


図2 調査位置図

2 調査の結果

確認調査 平成27年6月9～19日にかけて、工事予定地に南北2箇所の調査区を設定し、確認調査を実施した(図3)。各調査区の面積は調査区1が101㎡、調査区2が22㎡である。なお、調査区3は工事立会を行った擁壁工事部分である。

土層堆積状況は調査区1・2ともにほぼ同様であり、上層から現代造成土、旧耕作土、床土が続く、その下位には明黄褐色粘質土(包含層)、淡黄色粘質土(地山)が堆積していた(図4)。そして、いずれの調査区においても、地表下1.30～1.40m前後の淡黄色粘質土の上面から遺構が検出されている。以下、各調査区の内容について述べていく。

調査区1では、溝2条、土坑4基、ピット及びピット状遺構29基が検出された。溝はいずれも北東-南西方向に延びており、調査区外に続いている。その規模はほぼ同規模であり、SD1は幅約0.60m、深さ約0.15m、SD2は幅約0.60m、深さ約0.10mを測る。土坑は調査区の北東側で3基と、南隅で1基が検出されたが、南隅の土坑はその一部が確認されたのみである。ピット及びピット状遺構はいずれもSD1より北側で検出された。

出土遺物は、SP1から須恵器片、土師器片、瓦器片が出土したほか、SP3・4と包含層から須恵器や土師器の細片が出土している。また、SK1からは鍛冶滓の可能性のある遺物が1点出土している。SP1は出土遺物から古代から中世に帰属するものと推定されるが、その他の遺構の時期については不明である。

調査区2では、北東-南西方向の溝に北西-南東方向の溝が合流する溝が1条(SD3)と、北東-南西方向に延びる溝が2条(SD4・5)検出された。SD3の北東-南西方向の溝の幅は0.70～0.90m、北西-南東方向の溝の幅は0.60～1.00mを測る。SD4は幅0.40～0.80m、SD5は幅0.30mを測り、それぞれ調査区1のSD1とSD2に対応するものとみられる。これらの溝から遺物は出

土していないが、包含層から須恵器片や白磁片などが出土している。

工事立会 平成27年7月21日に擁壁工事部分において工事立会を行った結果、溝6条とピット1基が検出された。溝はいずれも北東 - 南西方向に延びており、調査区外に続いている。SD6～9・11の幅が0.20～0.40m前後とやや狭いのに対して、SD10はやや広く、約0.95mを測る。これらの溝のなかでSD6はSD1に、SD7はSD2に対応するものとみられる。遺物が出土していないため、その時期については不明である。



図3 調査区配置図、平面図

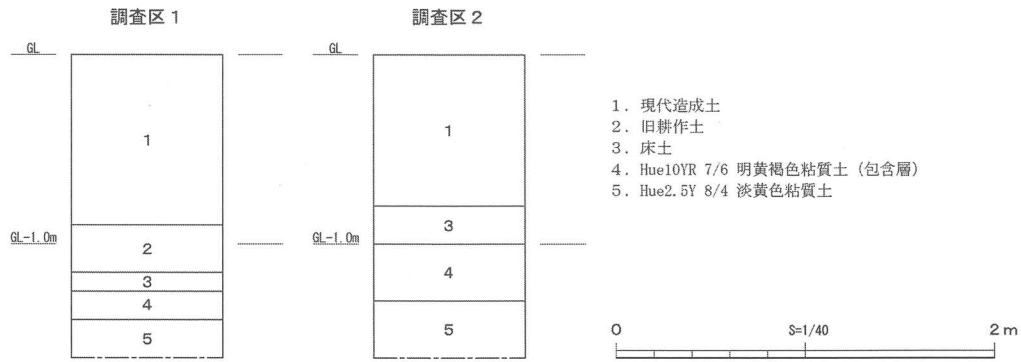


図4 調査区1北東壁・調査区2南東壁土層断面柱状図

3 まとめ

確認調査と工事立会を行った結果、今回の工事予定地では、溝11条、土坑4基、ピット及びピット状遺構30基が検出された。しかし、出土遺物が少なく、一部の遺構を除いて各遺構の時期は判然としない。ただ、古代から中世に帰属すると考えられる遺構が検出されたこと、北東 - 南西方向に延びる溝が多いことなどは隣接地での調査成果と整合しており、当該地周辺における古代から中世にかけての土地利用はかなり限定的であったと推察される。(平尾)

参考文献

久保弘幸編 2016『大塚遺跡発掘調査報告書』兵庫県文化財調査報告第481冊 兵庫県教育委員会



写真3 調査区1全景(東から)



写真4 調査区1全景(北西から)

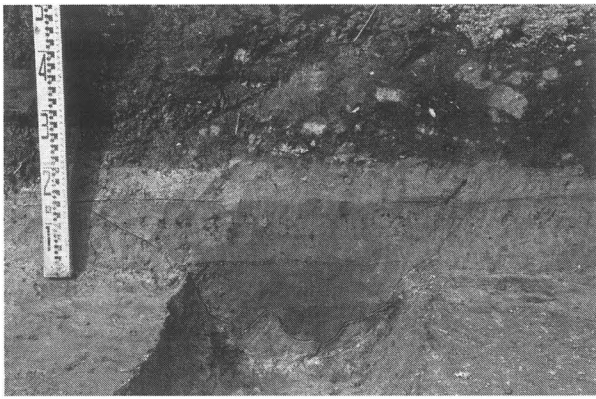


写真5 SD 1北東壁断面（南西から）



写真6 SK 1完掘状況（南西から）



写真7 SP 1完掘状況（南西から）

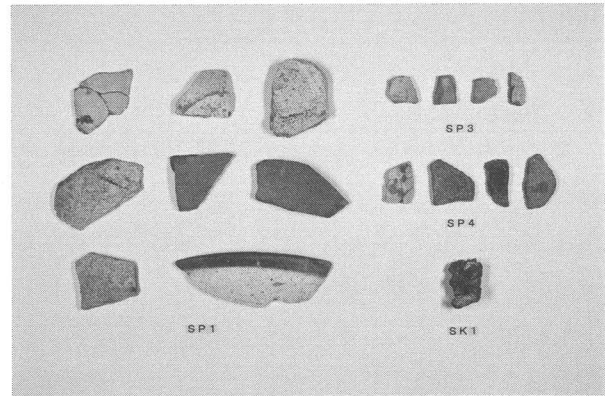


写真8 調査区1出土遺物



写真9 SD 3・4検出状況（南西から）

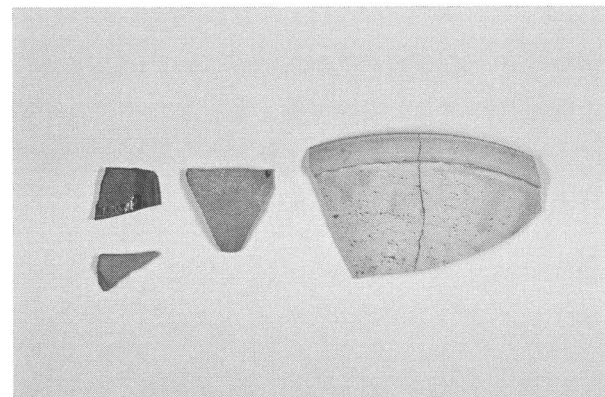


写真10 調査区2出土遺物



写真11 調査区3全景（南東から）

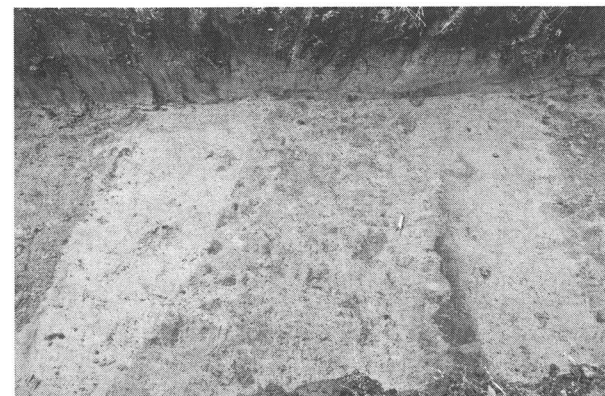


写真12 SD 10検出状況（南西から）

調査報告 2 溝之口遺跡 確認調査報告

調査場所 加古川市加古川町美乃利113番 1 ほか

調査期間 平成27（2015）年11月18・19日

調査面積 24㎡

1 調査に至る経緯

加古川町美乃利113番 1 ほかにおいて宅地造成工事が予定された（図5）。当該地は溝之口遺跡のほぼ南端部に位置している。過去の周辺の調査成果をみると、遺構は確認されておらず、また出土遺物もごく僅かであったが、今回の開発区域面積が約2,635㎡と広がったため、開発事業者と協議を行い、確認調査を実施することになった。

2 調査の結果

平成27年11月18・19日の2日間にわたって、工事予定地に1辺2mの調査区を合計6箇所設定し、確認調査を実施した（図6）。以下、各調査区の内容について述べていく（図7・8）。

調査区 1 地表下0.46m前後まで耕作土と床土が堆積しており、それより下位には暗褐色粘質土、暗オリーブ褐色粘質土が堆積していた。最終的に地表下1.45m前後まで掘り下げたものの、遺構・遺物ともに確認できず、また地山も検出できなかった。

調査区 2 調査区 1 とほぼ同じような土層堆積状況を呈しており、床土より下位には地表下1.20m前後まで暗褐色粘質土が堆積している状況を確認した。遺構は検出されなかったが、弥生土器片が出土した。

調査区 3 床土の下位から地表下約1.05mまでシルト層が堆積しており、その直下の地山と考えられる黄褐色粘質土上面から溝1条（SD1）と土坑1基（SK1）が検出された。いずれの遺構も検出のみにとどめたため、直接遺構に伴う遺物は確認できなかったが、シルト層中から弥生土器、土師器、須恵器の小片が出土している（図9-1）。



図5 調査位置図

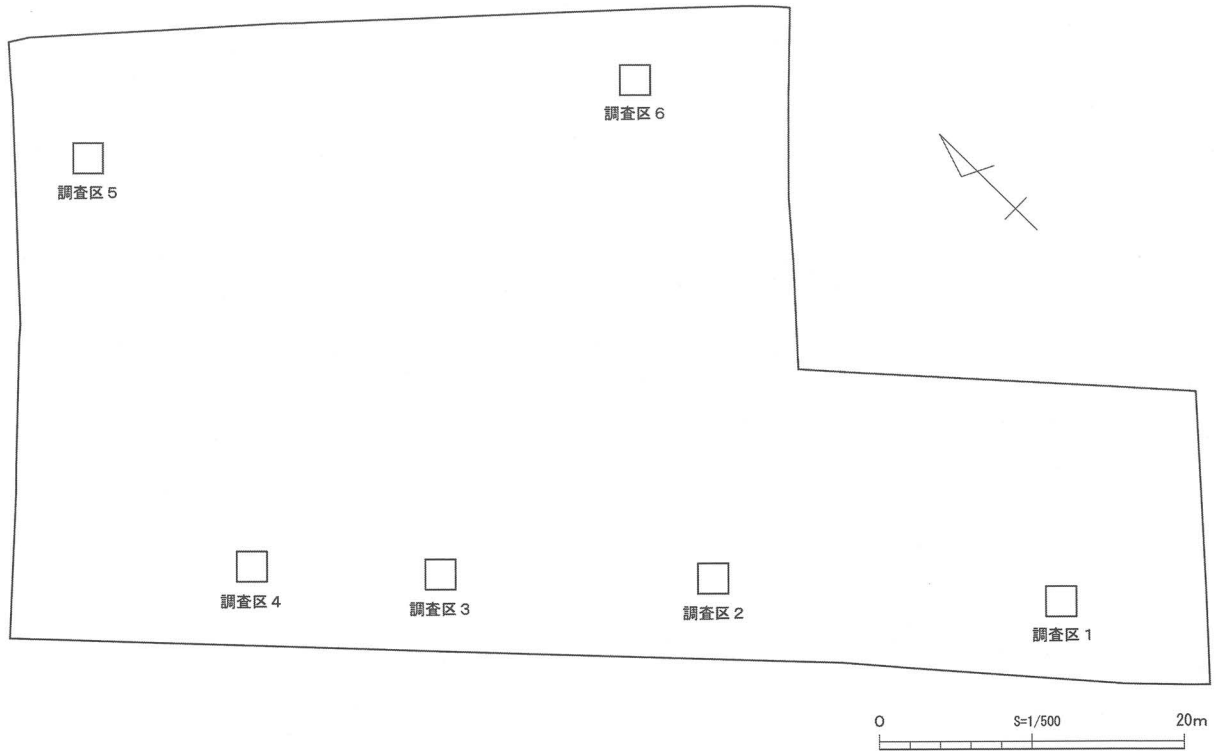


図6 調査区配置図

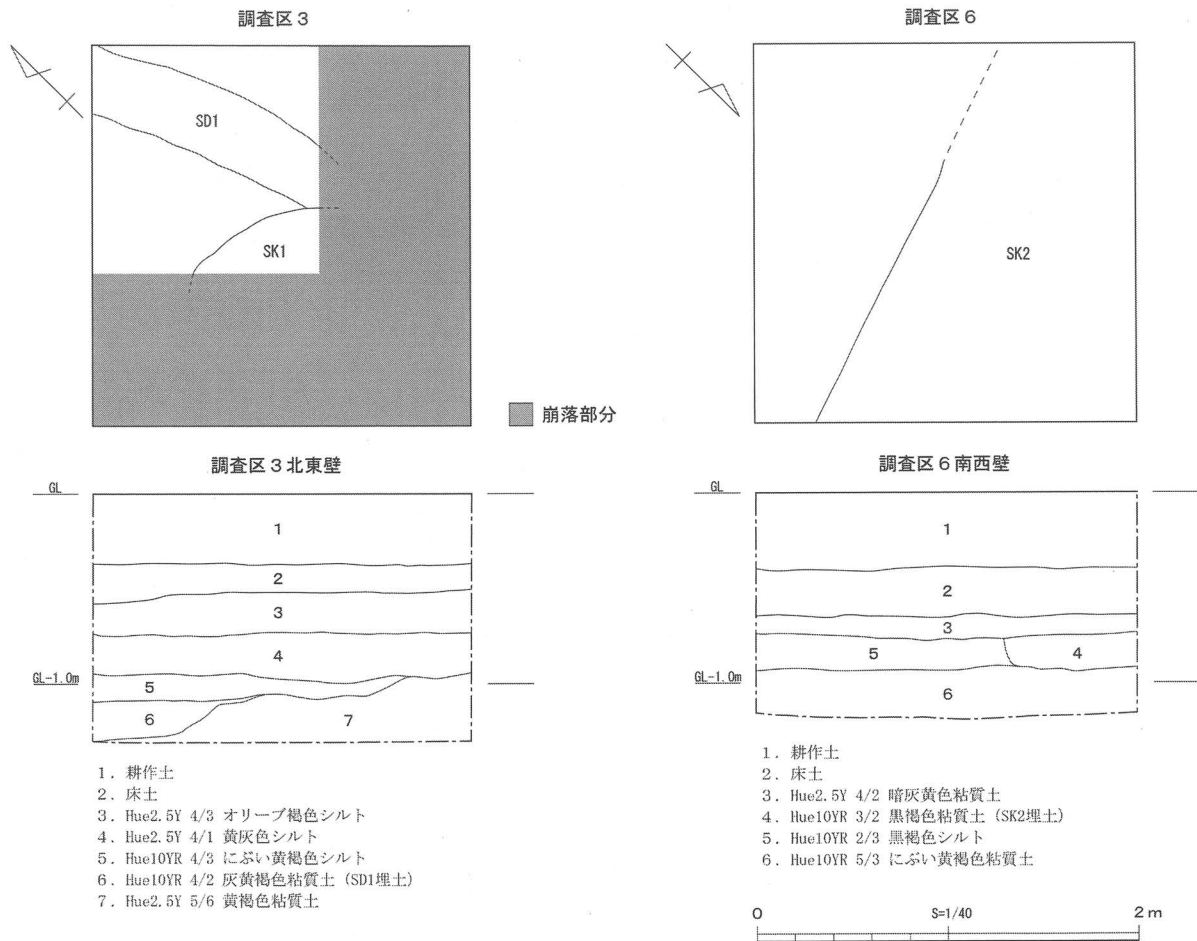


図7 調査区3・6平面図・土層断面図

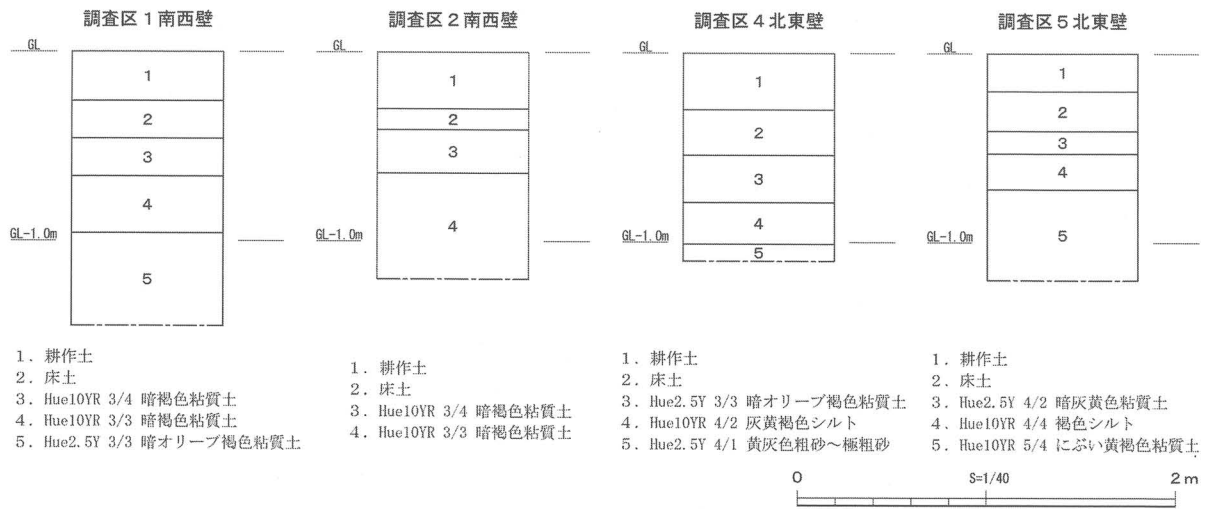


図8 調査区1・2・4・6土層断面柱状図

調査区4 調査区3と同じような土層堆積状況を呈しており、床土の下位から地表下1.01m前後までシルト層が堆積していた。シルト層の下位では黄灰色砂質土を確認したのみであり、地表下1.10m前後まで掘り下げたものの、地山は確認できなかった。遺構は検出されなかったが、第5層から残存状況が良好な弥生土器1点が出土したほか（図9-2）、調査区周辺から弥生土器、土師器の小片が表採されている。

調査区5 床土の下位にシルト層が堆積しており、地表下約0.72mにおいてにぶい黄褐色粘質土（地山）が確認された。遺構は検出できず、また遺物も出土していない。

調査区6 基本的に調査区5の土層堆積状況とほぼ同じであり、床土直下から地表下約0.92mまでシルト層が堆積し、その下位においてにぶい黄褐色粘質土（地山）が確認された。ただし、地山直上の黒褐色シルトの上面から土坑1基（SK2）が検出されている。遺構に伴う遺物は確認されていないが、シルト層中から弥生土器、土師器、須恵器の小片が出土している。

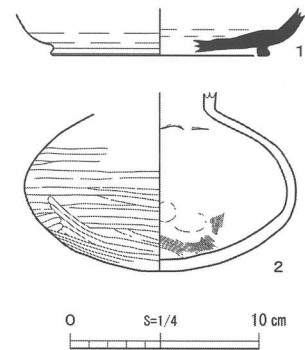


図9 出土遺物実測図

3 まとめ

これまでの調査では当該地周辺で遺構が検出された例はなく、また遺物もほとんど出土しなかった。今回確認調査を行った結果、工事予定地内の一部において、溝1条と土坑2基が検出された。しかし、各遺構は検出のみにとどめたため、直接遺構に伴う遺物は確認されておらず、各遺構の時期は不詳である。出土遺物としては、調査区4の第5層から出土した弥生土器を除き、いずれもその出土層位は不明であるが、調査区2・3・6から弥生土器や土師器、須恵器の小片が出土した。断片ではあるものの、今回の確認調査によって、溝之口遺跡の南端部における遺跡の様相を窺える資料を得ることができた。

（平尾）



写真13 調査区 1 土層堆積状況

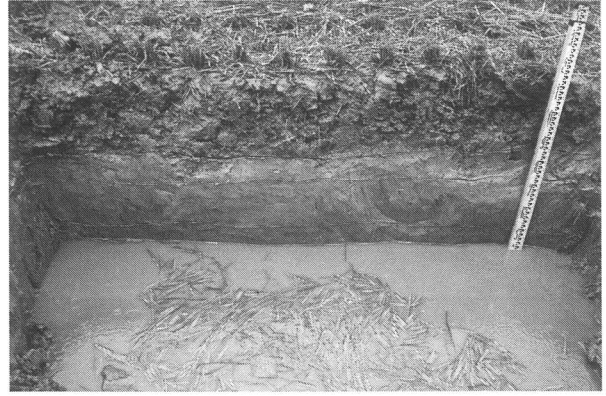


写真14 調査区 2 土層堆積状況



写真15 調査区 3 土層堆積状況



写真16 SD 1、SK 1 検出状況

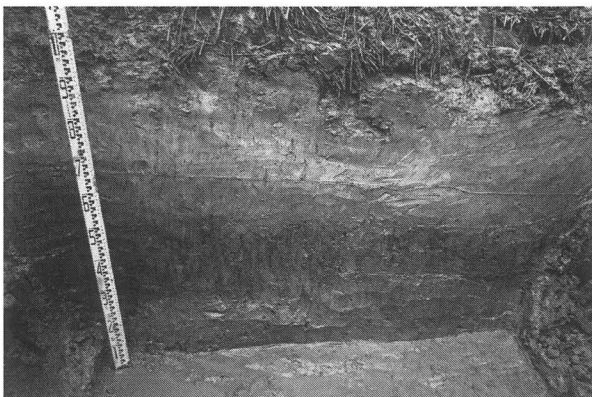


写真17 調査区 4 土層堆積状況



写真18 調査区 5 土層堆積状況



写真19 調査区 6 土層堆積状況



写真20 SK 2 検出状況

調査報告 3 神野遺跡 試掘調査報告

調査場所 加古川市神野町西条1059番1・2、1060番、1061番

調査期間 平成28(2016)年2月8日、3月7・8日

調査面積 約131㎡

1 調査に至る経緯

神野町西条1059番1・2、1060番、1061番の水田域において、宅地造成工事が予定された(図10)。当該地は加古川左岸の野口段丘に面する自然堤防上に位置している。周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲には含まれていなかったものの、神野遺跡の北側に近接しており、平成10年度の隣接地での確認調査では弥生時代から平安時代にかけての遺構・遺物が確認されていた。そのため、今回の工事予定地においても遺構・遺物が確認されることが想定されたため、開発事業者と協議を行い、試掘調査を実施することになった。

2 調査の結果

まず、平成28(2016)年2月8日に工事予定地に1辺2m四方の調査区を5箇所(調査区1～5)を設定し、試掘調査を行った(図11)。この結果、調査区4から溝1条、調査区5から性格不明遺構1基が検出され、調査区3～5において遺物包含層が確認された。この結果を受けて、3月7・8日には擁壁工事部分を調査区6とし、長さ約65m、幅約1.5mの範囲において、遺構・遺物の確認を行った。以下、各調査区の調査結果について述べていく(図12・13)。

調査区1 床土直下の地表下0.45m前後で自然堆積層と考えられる褐灰色砂礫層が確認された。この上面において幅0.20m、深さ0.20m前後の溝1条が検出されたが、遺物が出土していないため、詳細な時期は不明である。ただし、溝の覆土は耕作土に類似した土質であり、近世以降のものと推察される。最終的に地表下1.45m前後まで掘削したものの、この溝以外の遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

調査区2 床土直下の地表下0.60m前後において、にぶい褐色シルト層を掘り込んだピット1基が検

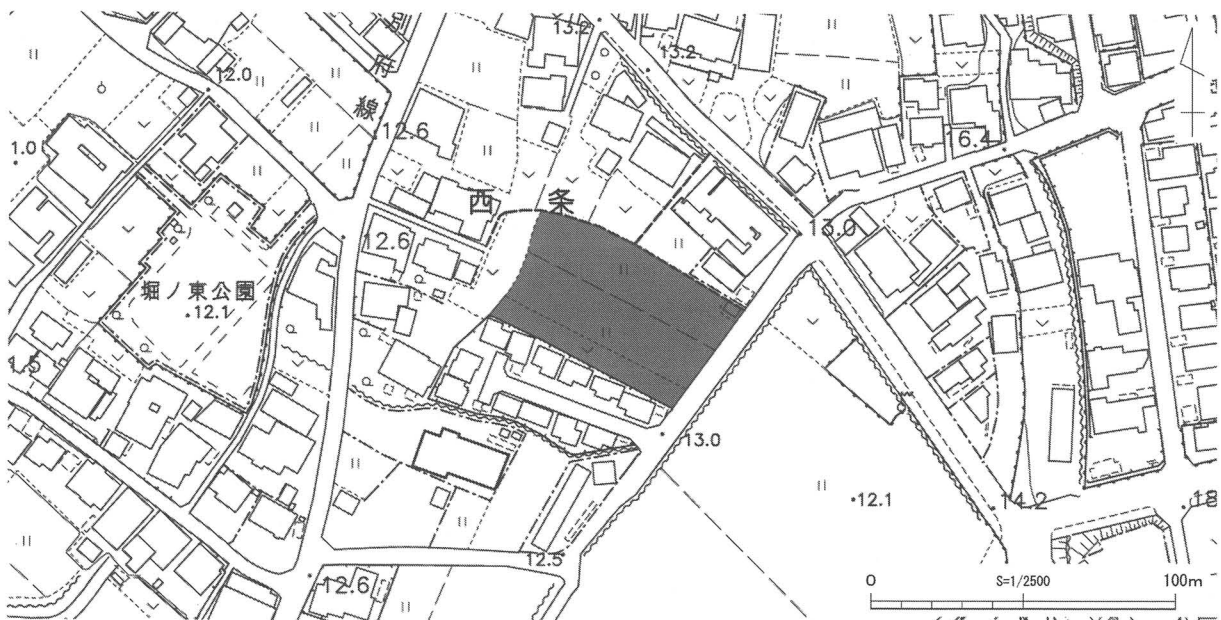


図10 調査位置図

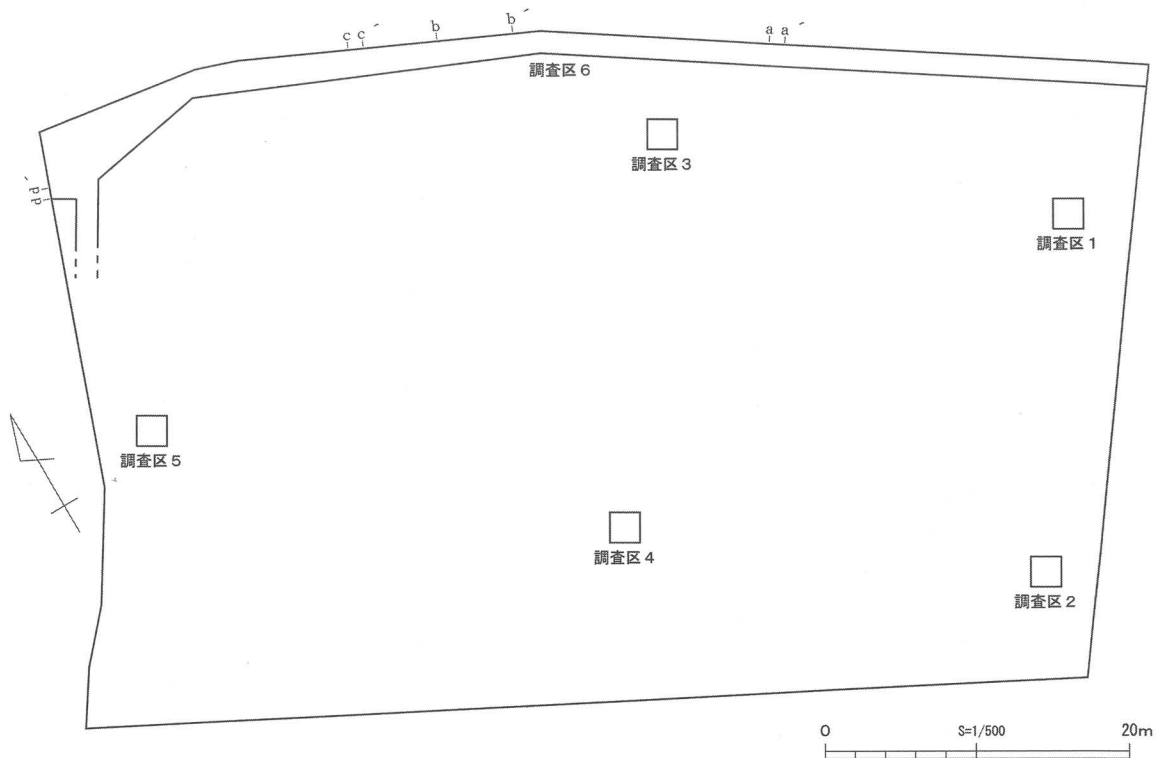


図11 調査区配置図

出されたが、出土遺物がないため、その時期は不明である。にぶい褐色シルト層の下位には地山と考えられる明黄褐色粘質土層、褐灰色粘質土層が堆積していた。最終的に地表下1.40m前後まで掘削したものの、時期不詳のピット1基以外は検出されず、また遺物も出土しなかった。

調査区 3 床土直下の地表下0.40m前後で、奈良時代から平安時代にかけての土師器や須恵器の小片を含む灰褐色粘質土の遺物包含層が確認された。包含層の直下には地山と考えられる明黄褐色粘質土が堆積していた。最終的に地表下1.45m前後まで掘削したものの、遺物包含層が確認されたのみで、遺構は検出されなかった。

調査区 4 調査区3と同様に、床土直下の地表下0.50m前後において、おもに奈良時代から平安時代にかけての土師器片・須恵器片などを多く含む遺物包含層が確認された。このほか、包含層からは円筒埴輪の底部片と考えられる破片や、軒平瓦あるいは平瓦の破片がそれぞれ1点ずつ出土した。包含層直下の地表下0.70m前後からは奈良時代から平安時代にかけての土師器片や須恵器片を含む大型の溝状遺構（SD1）が検出された（図14-1・2）。しかし、検出のみにとどめたため、その詳細は不明である。

調査区 5 地表下0.30m前後の床土直下で少量の遺物を含む灰褐色粘質土層の遺物包含層が確認された。その直下の地表下0.50m前後の明黄褐色粘質土層からは遺構（SX1）が検出されたが、調査区隅での検出であり、また検出のみにとどめたため、遺構の性格については不詳である。遺構に直接伴う遺物は確認されなかったが、調査区4と同様に包含層直下からの検出であることから、ほぼ同時期のものである可能性が考えられる。

調査区 6 土層はおおむね同様の堆積状況であった。地表下0.33~0.38mまで耕作土、床土が堆積し、その下位に層厚約0.10~0.23mの明褐色シルト層を挟み、おもに古墳時代から平安時代にかけての土師器片や須恵器片を多く含む灰褐色粘質土層の遺物包含層が確認された（図14-3）。包含層の直下

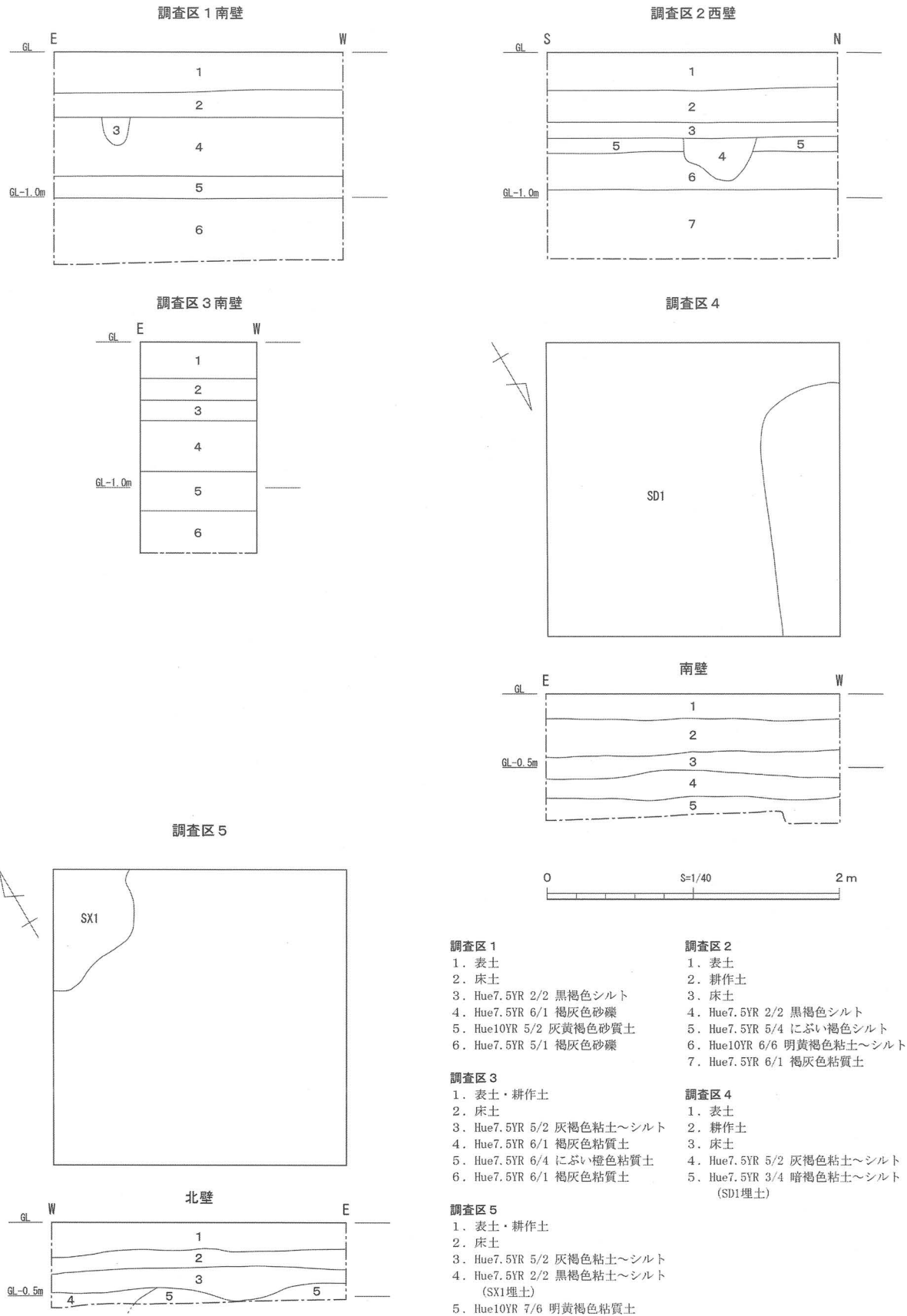


図12 調査区 1～5 平面図・土層断面図

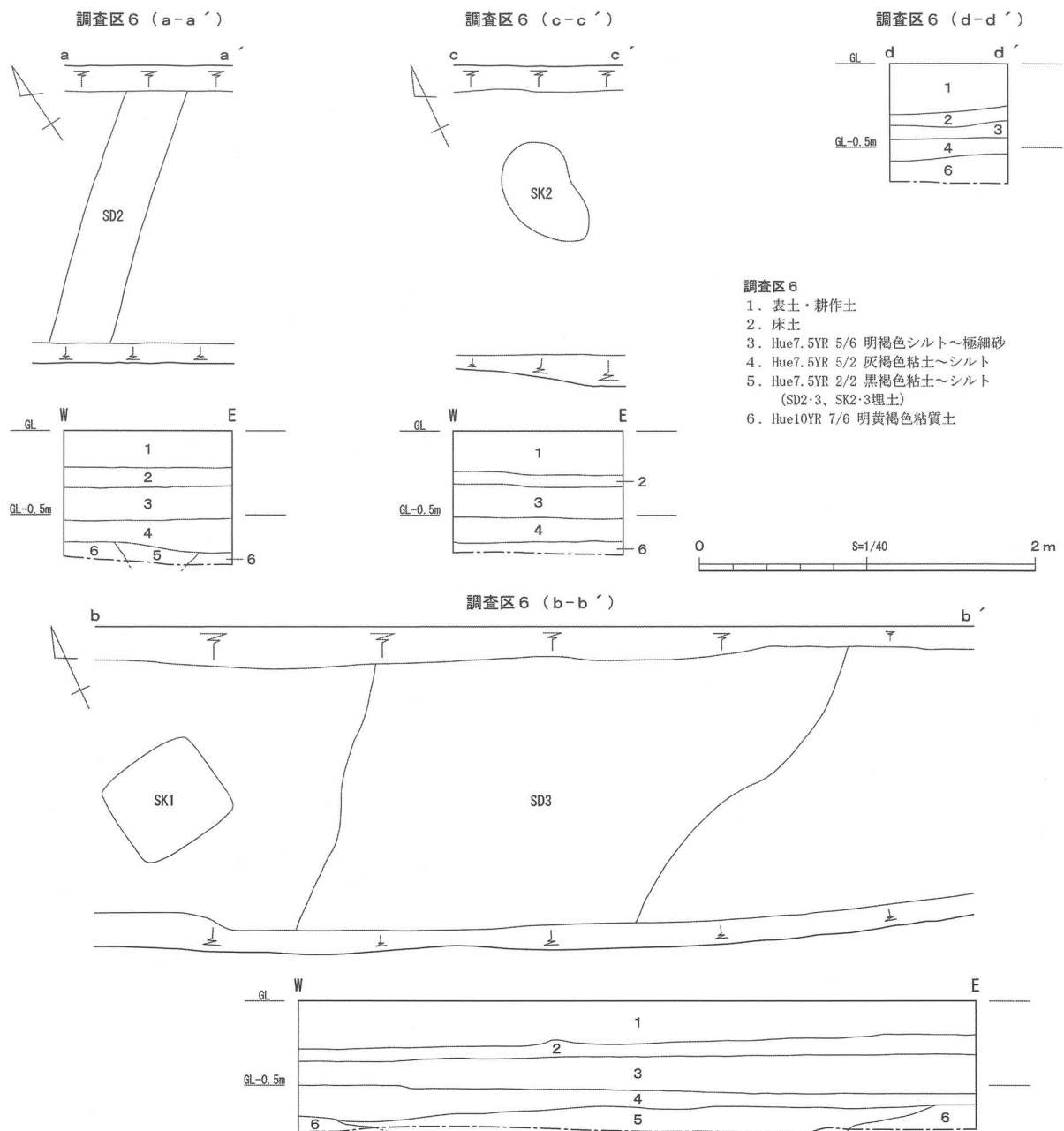


図13 調査区6平面図・土層断面図

では明黄褐色粘質土層の地山が確認され、この上面において溝2条 (SD2・3) と土坑2基 (SK1・2) が検出された。

溝はいずれも北東から南西方向に軸をとるものの、その規模には大きな差異があり、SD2の幅が約0.50mを測るのに対して、SD3の幅は約3.58mを測る。土坑については、SK1が一辺0.58～0.64mの隅丸方形の土坑であり、SK2が長径約0.67m、短径約0.38mのやや歪な楕円形の土坑であった。しかし、各遺構はその検出にとどめたため、詳細については不明である。

3 まとめ

試掘調査及び工事立会を行った結果、今回の工事予定地では、溝3条と土坑2基のほか、性格不明の遺構が1基検出された。いずれの遺構も検出のみにとどめたため、遺構に直接伴う遺物はほとんど

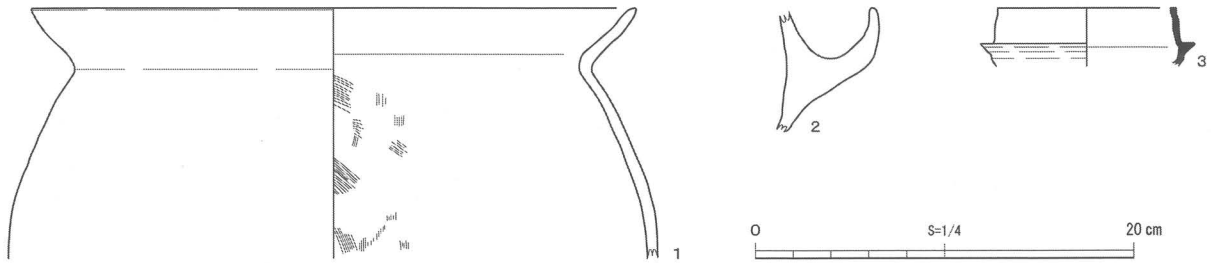


図14 出土遺物実測図

確認されていないが、SD1は出土遺物から奈良時代から平安時代に帰属すると考えられ、各調査区の遺物包含層も奈良時代から平安時代にかけての遺物を中心としていた。

平成10（1998）年度に今回の工事予定地周辺において実施した確認調査では、弥生時代後期の竪穴建物跡1棟、古墳時代の溝1条と土坑1基、平安時代の掘立柱建物跡の柱穴6基が検出され、多くの土器片が出土している。

これらの調査成果から、神野遺跡はおもに弥生時代から平安時代にかけて営まれた集落遺跡と考えられるが、集落構造やその消長等の具体的内容については、さらにデータを得たうえで今後検討していく必要がある。

なお、平成10年度の確認調査と平成28年度の試掘調査の結果から、平成28年5月13日付で周知の埋蔵文化財包蔵地の変更について兵庫県教育委員会に報告し、平成28年5月18日付で兵庫県教育委員会から包蔵地の範囲変更通知を受けた。（平尾）

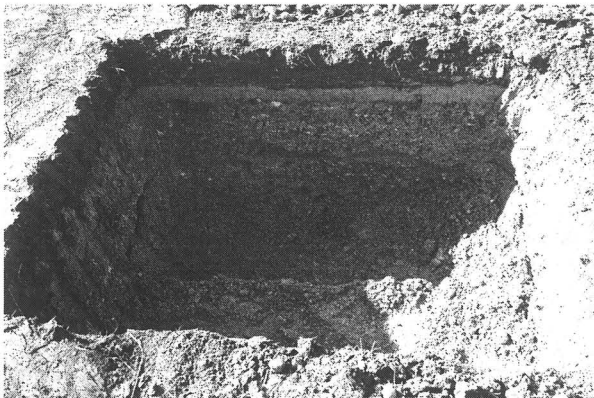


写真21 調査区1南壁土層堆積状況（北から）



写真22 調査区2西壁土層堆積状況（東から）

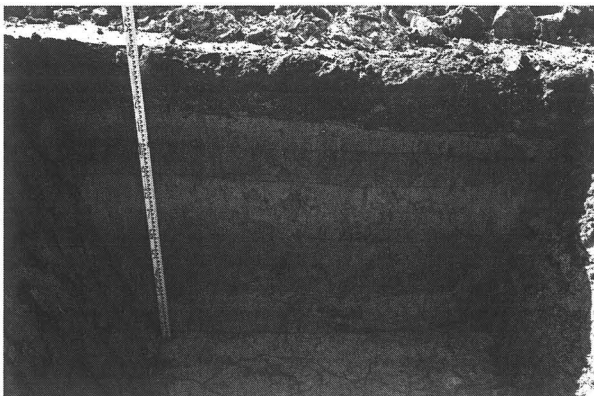


写真23 調査区3南壁土層堆積状況（北から）



写真24 調査区3出土遺物

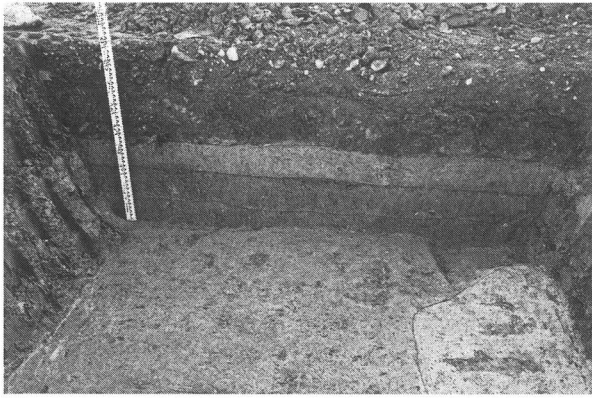


写真25 調査区4南壁土層堆積状況(北から)

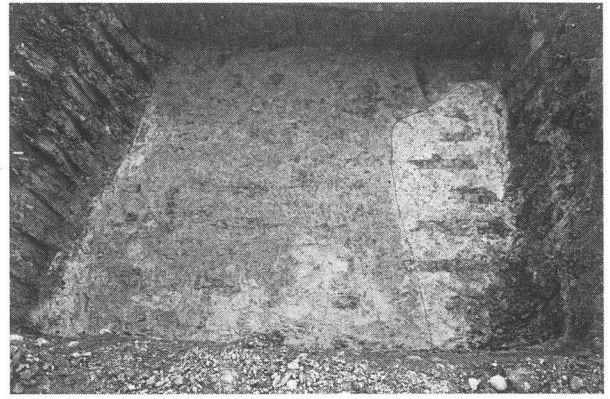


写真26 SD1検出状況(北から)

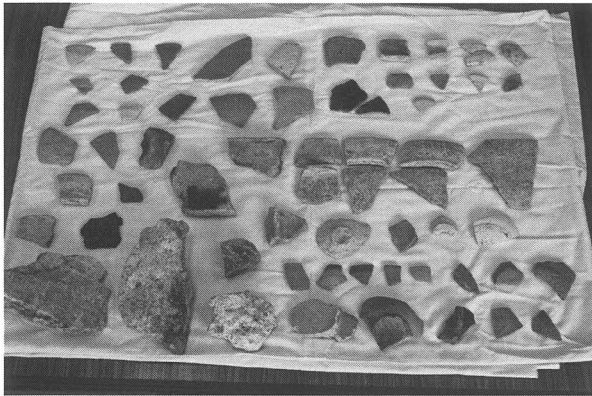


写真27 調査区4出土遺物

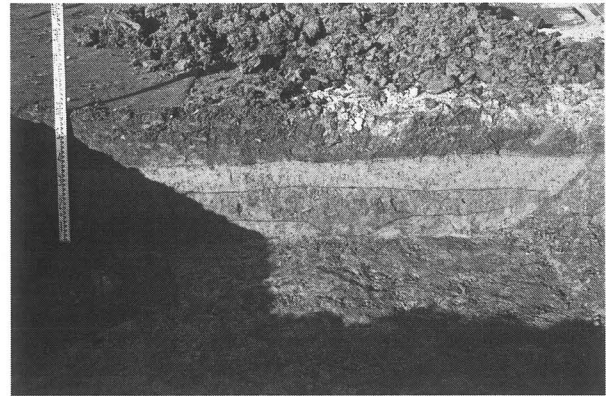


写真28 調査区5北壁土層堆積状況(南から)

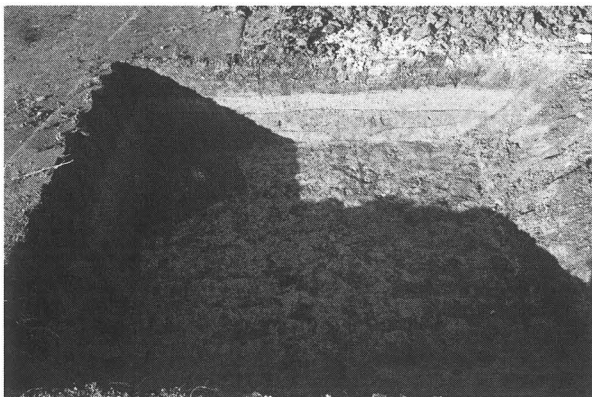


写真29 SX1検出状況(南から)

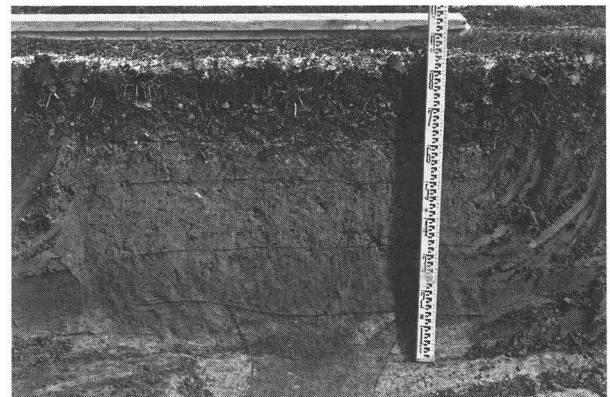


写真30 調査区6(a-a')土層堆積状況(南から)



写真31 SD2検出状況(南東から)

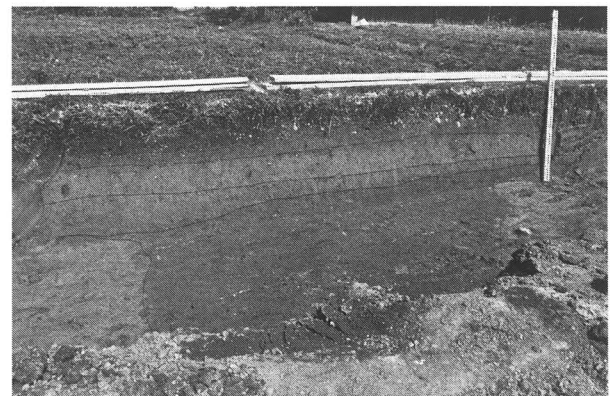


写真32 調査区6(b-b')土層堆積状況(南から)



写真33 SD 3 検出状況 (南東から)



写真34 SK 1 検出状況 (南東から)



写真35 調査区6 (c - c') 土層堆積状況 (南から)



写真36 SK 2 検出状況 (南東から)

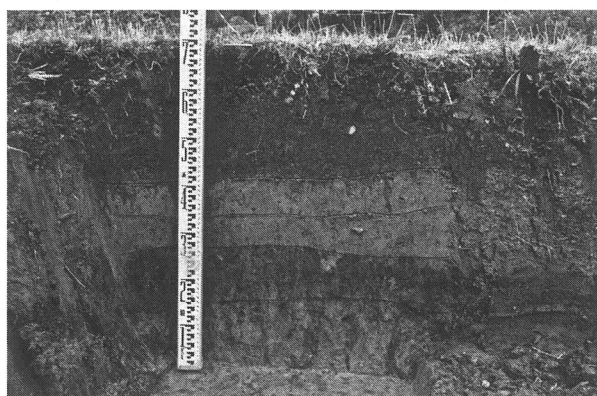


写真37 調査区6 (d - d') 土層堆積状況 (東から)



写真38 調査区6 出土遺物

調査報告 4 報恩寺 徳川将軍領地朱印状 概要調査報告

報恩寺は、加古川市平荘町山角に所在する真言宗の寺院である。中世の印南郡平之庄の中心寺院で、南北朝時代から室町時代までの古文書、奉加帳（以上、県指定文化財）、鎌倉時代の大般若経、室町時代の勸進状、安土桃山時代の参詣曼荼羅図（以上、市指定文化財）をはじめ、多くの貴重な史料を所蔵している。また、境内及び墓地には、鎌倉時代の石造十三重塔、鎌倉時代から室町時代までの石造五輪塔群（以上、県指定文化財）をはじめ、南北朝時代の石棺材を転用した石仏（市指定文化財）、13世紀の石造層塔や石棺材を転用した種子板碑など多数の中世の石造品が存在している。

報恩寺墓地の正和5（1316）年の石造五輪塔が、銘文やその下から発掘された蔵骨器から、法華山一乗寺の中興座主である宇都宮長老の墓塔であることが知られているなど、東播磨地域の中世を知るうえで、最も重要な寺院の一つである。

報恩寺には、専門家による石造品や古文書の調査、博物館で展示する資料の調査、文化財指定のための調査などで、幾度となく文化財調査にご協力いただいているところであった。このたび、前住職の圓山昭道老師から、まだ実見していない寺領安堵のための歴代徳川将軍からの朱印状の見学が許され、同寺の檀家役員で加古川市文化財審議委員の藤原良夫氏とともに、現状確認、写真撮影及び採寸程度の簡単な文化財概要調査を行った。

今後の参考となるよう、記録のため報告する。

- 1 調査目的 文化財の概要を把握するための調査
- 2 調査日時 現地調査 平成27年10月9日（金）午後2時から午後3時まで
- 3 場所 報恩寺 庫裏（加古川市平荘町山角478番地）
- 4 調査担当 主担当 宮本佳典（加古川市教育委員会文化財調査研究センター）
協力者 藤原良夫（加古川市文化財審議委員、報恩寺檀家役員）
- 5 立会者 圓山昭道（報恩寺前住職）
- 6 調査内容 徳川将軍朱印状9通について、現状確認、写真撮影、採寸、記録を行った。

（1）記録

ア 徳川家光朱印状

縦紙。慶安元年年8月17日。料紙は大高檀紙。包紙有り、縦47.0×横8.7cm。「大猷院様御朱印」の張り紙。「播州平庄／報恩寺権現領」。縦45.0×横62.3cm。折幅7.9cm。

イ 徳川綱吉朱印状

縦紙。貞享2年6月11日。料紙は大高檀紙。包紙有り、縦49.0×横8.8cm。「播磨国印南郡山角村／権現社領／報恩寺」。縦47.0×横66.0cm。折幅8.0cm。

ウ 徳川吉宗朱印状

縦紙。享保3年7月11日。料紙は大高檀紙。包紙有り、縦49.8×横8.9cm。「(欠失)院様御朱印」の張り紙。「播磨国平庄／権現社領／報恩寺」。縦46.7×横66.0cm。折幅8.6cm。

エ 徳川家重朱印状

縦紙。延享4年8月11日。料紙は大高檀紙。包紙有り、48.9×9.1cm。「惇信院様御朱印」の張り紙。「播磨国印南郡山角村／権現社領／報恩寺」。縦46.8×横65.6cm。折幅8.7cm。

オ 徳川家治朱印状

豎紙。宝暦12年8月11日。料紙は大高檀紙。包紙有り、51.1×9.1cm。「浚（ママ）明院様御朱印」の張り紙。「播磨国平庄／権現社領／報恩寺」。縦46.8×横63.2cm。折幅8.2cm。

カ 徳川家斉朱印状

豎紙。天明8年9月11日。料紙は大高檀紙。包紙有り、49.8×9.2cm。「文恭院様」の張り紙。「播磨国平庄／権現社領／報恩寺」。縦46.0×横64.5cm。折幅7.9cm。

キ 徳川家慶朱印状

豎紙。天保10年9月11日。料紙は大高檀紙。包紙有り、50.2×9.3cm。「慎徳院様」の張り紙。「播磨国平庄／権現社領／報恩寺」。縦46.4×横64.3cm。折幅8.0cm。

ク 徳川家定朱印状

豎紙。安政2年9月11日。料紙は大高檀紙。包紙有り、49.5×9.5cm。「温恭院様御朱印」の張り紙。「播磨国平庄／権現社領／報恩寺」。縦44.5×横64.3cm。折幅7.9cm。

ケ 徳川家茂朱印状

豎紙。万延元年9月11日。料紙は大高檀紙。包紙有り、48.6×9.3cm。張り紙なし。「播磨国平庄／権現社領／報恩寺」。縦44.5×横65.3cm。折幅8.2cm。

(2) 解説

領知朱印状は、江戸時代において将軍が公家・武家・寺社の所領を確定させる際に発給する朱印状のことである。なお、黒印状は、大名から出されたものである。

これにより、領地内の租税は全て免除され、収益は寺社の収入となるが、それではまかなえず、ほとんどの寺院が大名や有力者からの寄進で維持されていた。

報恩寺には、9通の徳川将軍からの朱印状が伝わっている。3代家光、5代綱吉、8代吉宗、9代家重、10代家治、11代家斉、12代家慶、13代家定、14代家茂からのものである。 (宮本)

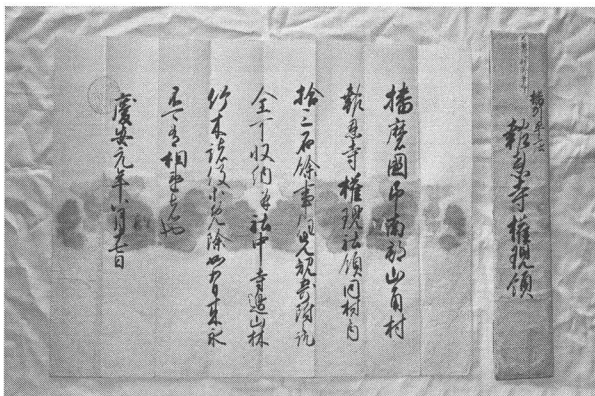


写真39 徳川家光朱印状

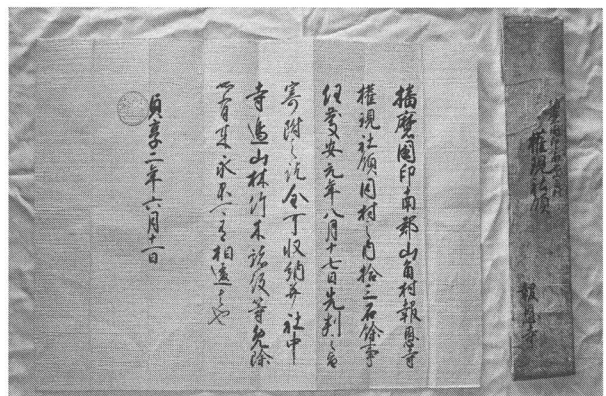


写真40 徳川綱吉朱印状

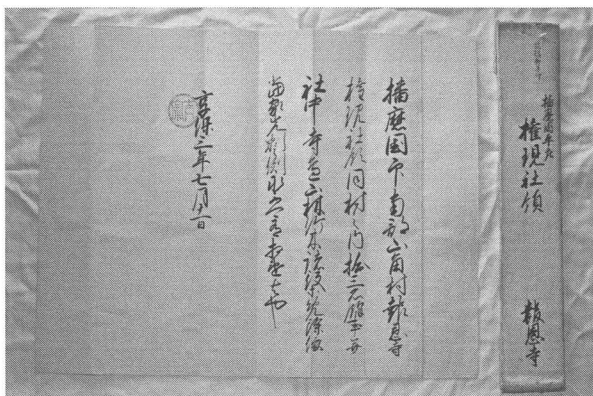


写真41 徳川吉宗朱印状

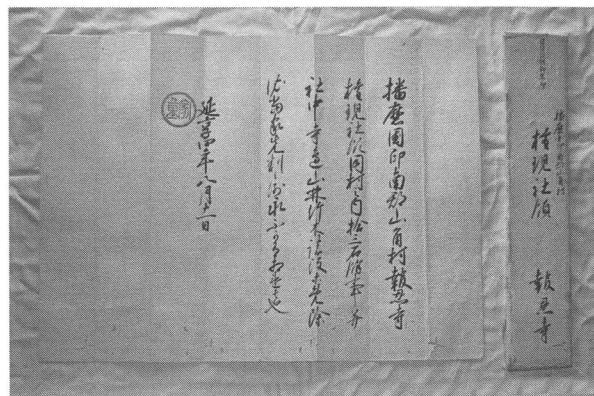


写真42 徳川家重朱印状

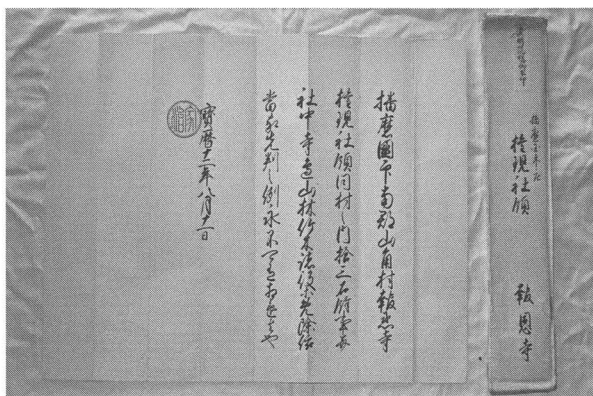


写真43 徳川家治朱印状

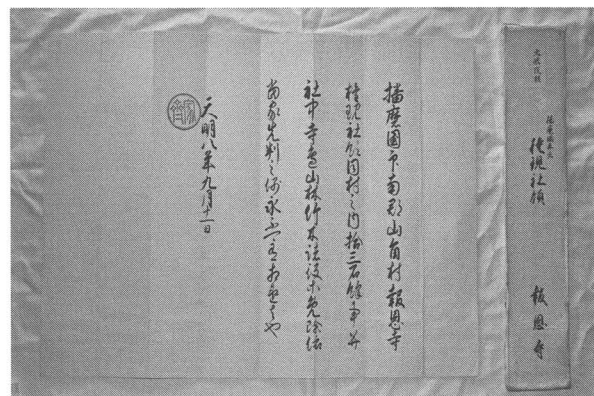


写真44 徳川家斉朱印状

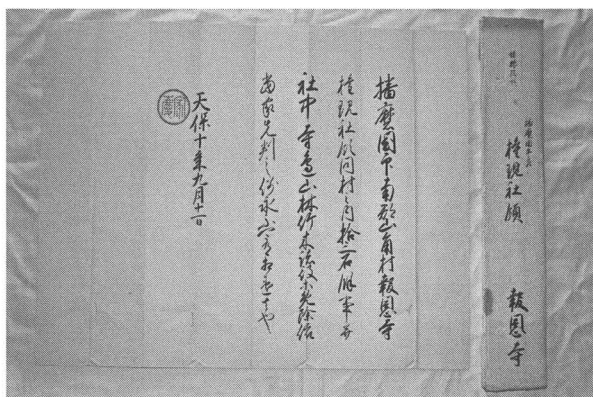


写真45 徳川家慶朱印状

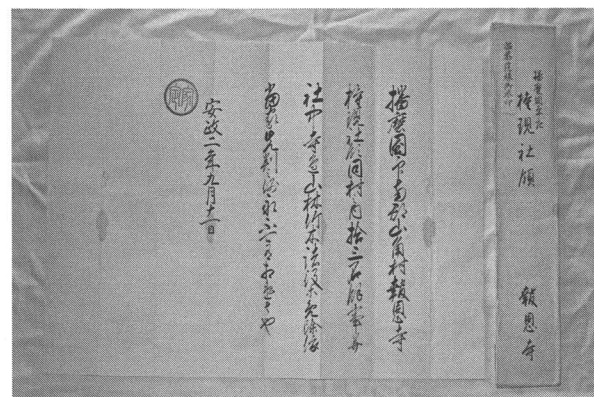


写真46 徳川家定朱印状

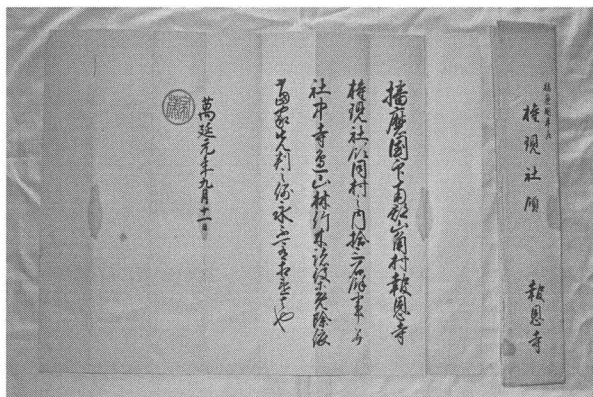


写真47 徳川家茂朱印状

調査報告 5 志方八幡神社 楽太鼓 概要調査記録

志方八幡神社は、天永2（1111）年に妙見大明神が志方庄宮谷に創祀され、明応元（1492）年に現在の場所に移り八幡神を勧請し、志方庄30か村の総鎮守となったという志方地域の中心的な神社である。

平成27年7月15日に、志方八幡神社間原智子宮司から、楽太鼓の皮の損傷に伴う修理のため、修理業者に預けていたところ、胴部に彩色があることが判明し、業者の助言もあり、修理で削ってしまう前に文化財としての価値を確認したいという内容の調査依頼があった。

依頼の内容から、この楽太鼓が、指定文化財として保存すべき可能性がある資料と判断できたため、現状確認、写真撮影及び採寸程度の文化財概要調査を行った。

今後の参考となるよう、記録のため報告する。

- 1 資料名称 楽太鼓（志方八幡神社所蔵）
- 2 調査日時 平成27年7月17日午後4時から午後4時45分まで
- 3 調査場所 志方八幡神社拝殿（志方町志方町301番2）
- 4 調査担当者 宮本佳典
- 5 調査理由 所有者からの情報提供
- 6 報告内容 調査方法は、聞き取り、目視による観察、測定及び簡単な写真撮影である。調査の結果は、以下のとおりである。

- (1) 名称 楽太鼓（釣太鼓）
- (2) 所有者 志方八幡神社
- (3) 数量 1挺
- (4) 現況 損傷あり。胴部表面彩色の褪色が激しい。皮部がやや緩んでいる。縁部及び台部が欠失している。
- (5) 材質 胴の材質は、樺材に見える。皮の材質は、牛皮に見えるが、詳細は不詳である。
- (6) 時代 胴部の彩色から17世紀中旬から18世紀初旬の可能性を考えるが、不詳である。全体に江戸時代のものとするのが妥当であると考えている。
- (7) 法量等 胴幅 19.5cm、胴最大径 56.0cm、胴口径 52.6cm
皮留め金具数 片面103個、別面は見測だがほぼ同数に見える
- (8) 記事 銘文等なし。関連する古文書等なし。関連する伝承等なし。ただし、胴内部に墨書記録があることが考えるため、今後注意しておく必要がある。

(9) 調査記録

ア 聞き取り内容及びこれに伴う所見

- ・この太鼓胴の来歴及び由来は、不明である。昔から使用しているということである。
- ・古様であるので、江戸時代後期くらいからのものではないかと考える人もいるようであるが、あまり根拠がある意見ではない。
- ・志方八幡神社の歴史については『増訂印南郡誌』に詳しい。
- ・志方八幡神社の復興期である貞享年間から宝永年間までと、太鼓胴の彩色が示す年代がほぼ一致することから、この楽太鼓の制作時期についても、この時期にあるような印象を受ける

が、詳しくわからない。

イ 現況内容

- ・この太鼓は、楽太鼓の釣太鼓の胴の部分である。
- ・太鼓縁は、現存しない。
- ・この太鼓胴と制作当初から合う太鼓台は、現存しない。

ウ 表面観察及びこれに伴う所見

- ・胴の材質は、樺材に見える。
- ・胴の表面は、赤や緑の彩色を中心とした宝相華文に見える花草文が全面に描かれている。この地域の元禄期の寺院建築の柱の彩色と類似した感があり、この彩色の時期については17世紀後半から18世紀初めの可能性が考えられる。
- ・胴の表面の左右端の剥落部分には、菱文の形跡がある。下地であるか現在の彩色以前の本来の文様であるかは不明であるが、外見では下地生地の模様のように感じる。現在の彩色以前の本来の文様である場合、桃山時代から江戸時代初期のものである可能性がわずかにある。しかし、今回の表面観察では、その時代までさかのぼる資料であるという印象はあまり感じない。
- ・皮の材質は、牛皮に見えるが、不詳である。
- ・皮の文様は、外を黒く塗り中を白く残した巴文（左三つ巴文）である。
- ・吊金具は、通常どおり3箇所にあり、いずれも鉄製で菊座に環を填める簡素なもので古様には見えない。江戸時代以降のものであろう。

(10) 所見 調査の結果、この楽太鼓は、江戸時代に制作された楽太鼓の太鼓部分であると判断できる。同時代の同様の楽器については、国、県、市の指定文化財になっている例は無いようであり、すぐに指定文化財として取り扱うべき資料とは言えない。しかしながら、太鼓全体の状況、また、太鼓胴の表面の彩色が、江戸時代の古様の彩色であることなどから、太鼓胴内部の墨書の確認など、今後の調査を期待しながら、可能な限り、現状を保存することが望ましいと考える。 (宮本)



写真48 志方八幡神社楽太鼓

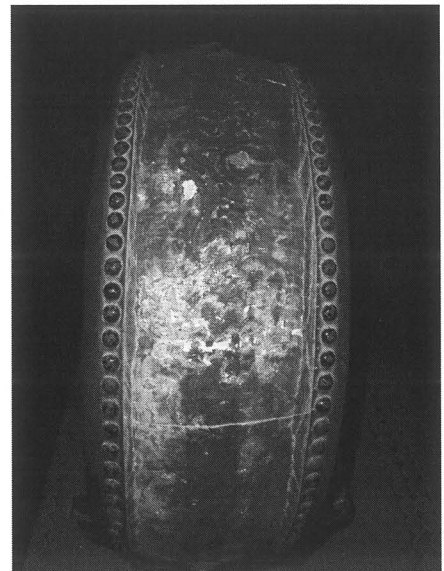


写真49 志方八幡神社楽太鼓胴部分の文様

記録1 特別天然記念物 オオサンショウウオ 保護活動記録

平成27年12月8日、しろやま農業研修センター（加古川市志方町東中200番5）に隣接した法華山谷川に架かる馬橋付近の河川改修工事中に、特別天然記念物オオサンショウウオが発見されたとの連絡があった（図15）。この連絡を受けた加古川市教育委員会文化財調査研究センター職員は、現地確認した後すぐに兵庫県教育委員会文化財課に連絡・協議し、オオサンショウウオに危害が及ばないように緊急に一時保護した。翌9日午前には兵庫県教育委員会から連絡を受けた一般財団法人兵庫県自然保護協会の専門員が来所し、オオサンショウウオの調査と個体の登録が実施された。その後、河川改修工事の影響が及ばない法華山谷川の上流域某所に放流した。なお、今回保護されたオオサンショウウオの各計測値を示したものが表2である。



図15 オオサンショウウオ保護場所

表2 オオサンショウウオ各計測値

全長 (mm)	尾長 (mm)	尾高 (mm)	眼間 (mm)	重量 (g)	備考
975	375	110	71	7100	右後肢全指欠損

なお、その後の取材の中で、志方町畑町町会長によると30年くらい前にも法華山谷川上流域でオオサンショウウオを見つけ、すぐに加古川市に連絡し、職員とともに放流したということである。

オオサンショウウオは、国の特別天然記念物に指定されている日本固有種の両生類であり、岐阜県以西の本州と四国、九州の一部のみに分布していると考えられている（松井2014）。同一個体が含まれている可能性があるものの、兵庫県内では607件の分布情報が確認されており、淡路島を除いて兵庫県のほぼ全域でその分布が確認されている（栃本ほか2007）。加古川市域でも6例の分布情報が収集されているが、法華山谷川ではこれまでにその分布が確認されていなかった。法華山谷川でオオサンショウウオが確認されたことは貴重なデータである。

河川の改修による生息地の消失、外来種チュウゴクオオサンショウウオとの競合や交雑によって絶滅の危機に瀕しているオオサンショウウオであるが（松井2014）、今後はこのような生物を適切に保護することだけでなく、現在の豊かな自然環境を維持していく必要がある。（平尾）

参考文献

栃本武良・田口勇輝・大沼弘一・川上徳子・清水邦一・土井敏男・柿木俊輔・夏原由博・三橋弘宗 2007
 「兵庫県におけるオオサンショウウオの分布情報」『人と自然』18号 兵庫県立人と自然の博物館
 松井正文 2014「オオサンショウウオ」『レッドデータブック2014－日本の絶滅のおそれのある野生動物－』
 3 爬虫類・両生類 株式会社ぎょうせい

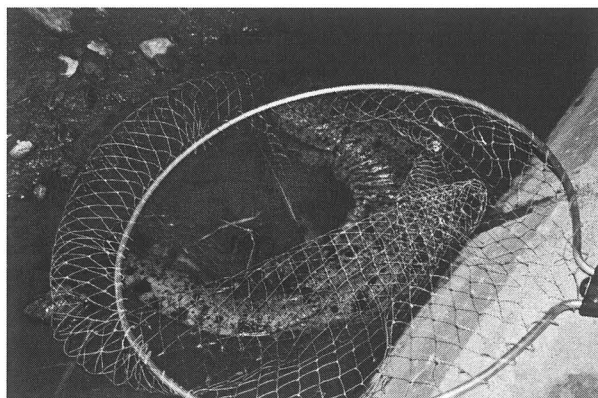


写真50 保護状況写真1

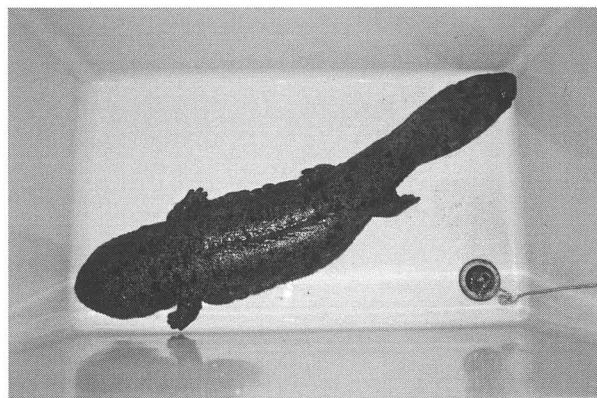


写真51 保護状況写真2s



写真52 計測状況写真



写真53 放流後のオオサンショウウオ

記録2 志方町永室 構の石棺 移設記録

構の石棺は、四辺に段があることから、古墳時代の組合せ式石棺の底石であることが知られている。この石棺は、加古川市志方町永室字構564番の個人宅の庭園内の西側の位置に保存されていたもので、庭園内に移される以前は、すぐ前の路傍に置かれていたものである。

平成28年1月18日に、土地の所有者の家族から、この石棺を庭園内で管理することが困難になったため、移転等についての相談があった。その時には、私有地にあるものため、行政が移転等を行うことが難しいこと、可能な限り現在の位置から近い場所で保存することが望ましいこと、また、地域の関係者とも相談してほしいことを伝えておいたところ、後日になって、1月22日に長楽寺（志方町永室853番地の1）の境内に移転したことの連絡を受けた。

この石棺は、考古資料として、保存することが望ましい資料であるため、移転後の状況を確認したので、記録のため以下のとおり報告する。

- 1 資料名称 構の石棺
- 2 調査日時 平成28年3月25日（金）午前11時から午前11時15分まで
- 3 場所 長楽寺境内（加古川市志方町永室853番地の1）
- 4 調査理由 元所有者からの連絡による「構の石棺」の移転に伴う記録のための調査
- 5 調査担当者 宮本佳典
- 6 調査内容 移転先での石棺の状況を確認した。以前は庭園内に伏せ石状に置かれていたが、長楽寺境内の旧本堂跡の南側の位置に移転後は、他の石造品と並んで、短辺を上下として下部を地中に埋めて立て石状に保存されている。
- 7 寸法 縦115cm、横57cm、高さ15cm（『加古川市史』第四巻の掲載値）
移転後は石棺を立てており、現高101cmである。14cmが地中に埋まっていることになる。 (宮本)

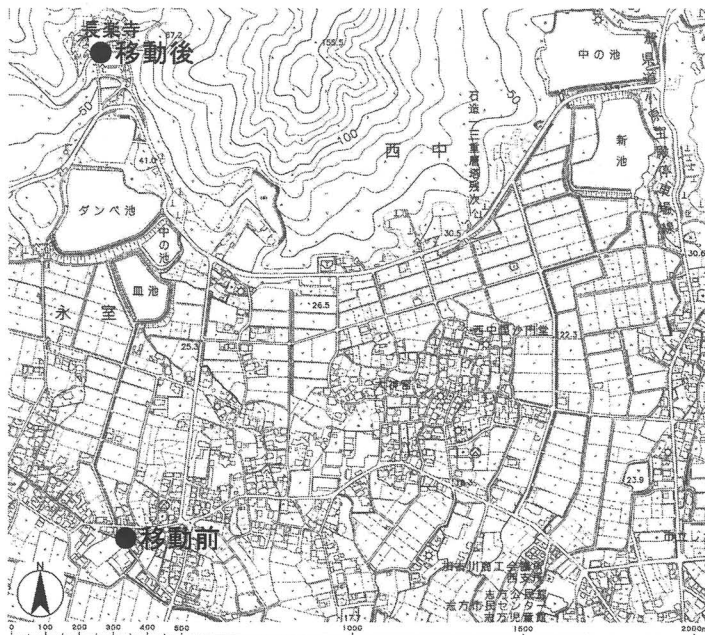


図16 構の石棺位置図

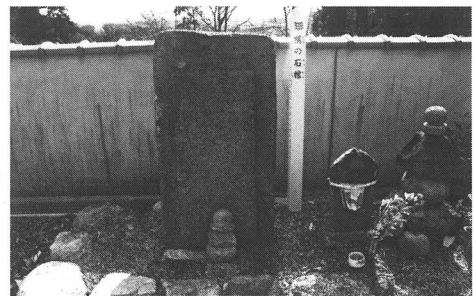


写真54 構の石棺（移設後）



写真55 構の石棺（移設後全景）

第2章 文化財の保護と活用

1 指定・登録文化財

平成28年3月31日現在、市内の指定・登録文化財は、国指定23件（国宝2件）39点、県指定32件54点、市指定64件1394点、国登録9箇所37件である（表3）。

表3 加古川市指定・登録文化財数一覧

区分	種別	箇所数・件数	計		
			箇所数	件数	合計
国指定	国宝	建造物	2	2	23件
	重要文化財	建造物	4	21	
		絵画	5		
		彫刻	6		
		工芸品	5		
		史跡	1		
県指定		建造物	18	32	
		絵画	3		
		彫刻	6		
		工芸品	3		
		書跡	1		
		史跡	1		
市指定		建造物	3	64	
		絵画	9		
		彫刻	15		
		工芸品	9		
		書跡・典籍	6		
		考古資料	14		
		無形文化財	1		
		民俗資料	2		
		史跡	4		
		天然記念物	1		
		国登録			建造物
記念物	1				

(1) 市指定文化財の指定

文化財審議委員会に諮問し、答申を受けた六地藏石仏（西之山町内会）と四尊石仏（報恩寺）の2件について、新たに加古川市指定文化財に指定した。

ア 六地藏石仏（口絵写真1）

名称及び数量	六地藏石仏 1基
指定分類	考古資料
寸法	高134cm、幅80cm、厚さ21cm
材質	石造、凝灰岩製
時代	南北朝時代 康永元（1342）年8月
所在地	神野町西之山428番地
所有者	西之山町内会
指定年月日	平成28（2016）年2月25日
指定理由	西之山のお堂と呼ばれる地藏堂の中に安置されている石造品である。板状の大きな切石に横一列に配した6軀の地藏菩薩立像を半肉彫りしている。地藏菩薩は、いずれも蓮華座上に立ち像高は約21 cmである。向かって右端の像が幡を持ち、右から4番目の像が捧珠持錫像であるほか磨滅のため詳しくはわからない。右から2番目の像と左端の像が合掌の像と考えられている。

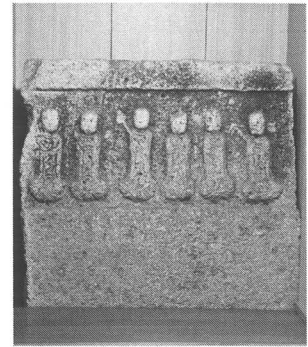


写真56 六地藏石仏

西之山のお堂と呼ばれる地藏堂の中に安置されている石造品である。板状の大きな切石に横一列に配した6軀の地藏菩薩立像を半肉彫りしている。地藏菩薩は、いずれも蓮華座上に立ち像高は約21 cmである。向かって右端の像が幡を持ち、右から4番目の像が捧珠持錫像であるほか磨滅のため詳しくはわからない。右から2番目の像と左端の像が合掌の像と考えられている。

地藏像の下の平面に銘文があり「右造顕趣者為／二親（3字不明）頓／証菩提乃至法／界平等利益也／康永元季八月日／願主 上村（1字不明）盛康／敬白」と読める文字が陰刻されている。作者は不詳である。

この切石は、古墳時代の石棺の一部の可能性があり、石棺材に複数の仏像を彫り出したこのような形式の石仏は、加古川地域の特色を示すものでもある。また、制作年代が明らかなこの石仏は、この地域の中世の石仏を考える上で基準となる貴重なものである。

追補

この石仏を安置している堂については、堂内の正面に弘法大師と伝教大師の木造の小像が安置されており、『加古川市史 第七巻』では、「大師堂」としているが、堂内の文政11年（1828）の棟札に「六地藏堂」、大正13（1924）年の棟札に「地藏堂」とある。



写真57 西之山地蔵堂

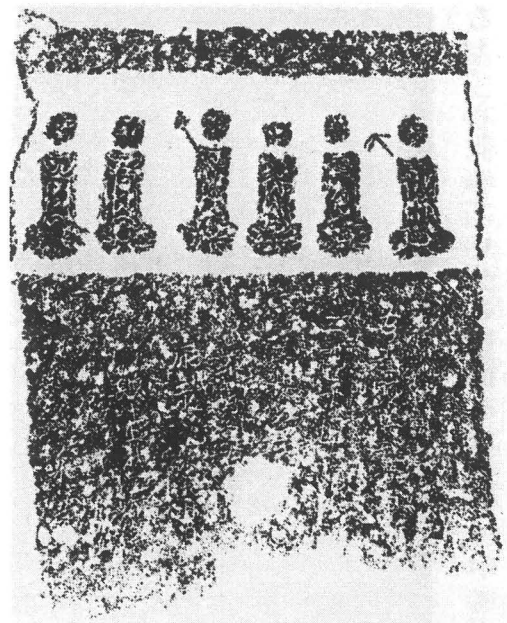


写真58 六地藏石仏拓本
（『加古川市史第七巻』から転載）

イ 四尊石仏（口絵写真2）

名称及び数量	四尊石仏 1基
指定分類	考古資料
寸法	地上高81cm、幅68cm、厚11cm
材質	石造、凝灰岩製
時代	南北朝時代 文和2（1353）年2月
所在地	加古川市平荘町山角466番地3
所有者	報恩寺
指定年月日	平成28（2016）年2月25日
指定理由	報恩寺本堂の背後の墓地に西面して立ち、古墳時代の石棺材に、横に並んだ4軀の弥陀如来坐像を半肉彫りしている。作者は不詳である。

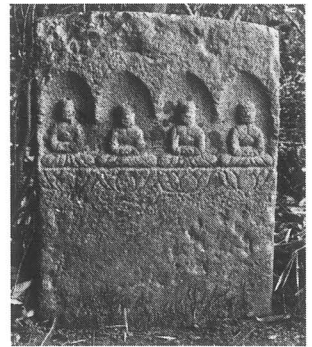


写真59 四尊石仏

これら4軀の弥陀尊像は、いずれも舟形の輪郭を彫りくぼめた中に半肉彫りしており、蓮華座の上に座し、像高は18.8cmである。

石棺は凝灰岩製の組合せ式石棺の長側石である。背面に溝の加工痕があることから、これらの像が石棺材の外側に彫出されていることがわかる。

この石仏には銘文があり、向かって右から第二尊と第三尊の間に「文和二季」、また、第三尊と第四尊の間に「二月」の文字が陰刻されている。

このことから、この石仏が南北朝時代の文和2（1353）年に制作されたことがわかる。

石棺材に複数の仏像を彫り出したこのような形式の石仏は、加古川地域の特色を示すものでもある。また、制作年代が明らかなこの石仏は、この地域の中世の石仏を考える上で基準となる貴重なものである。

追補

銘文の年号部分の「季」については、「年」に見えるという意見がある。窪んだ部分に小さく陰刻され、また、磨滅もあるため判断できない。



写真60 四尊石仏背面



写真61 四尊石仏遠景

（2）市指定文化財の種別変更

すでに市指定文化財に指定されていたもののうち、六尊石仏（長楽寺）と八尊石仏（小畑東町内会）の2件について、その種別を彫刻から考古資料に変更した。

2 指定文化財保存管理補助

公開している指定文化財である「鶴林寺の指定文化財」(鶴林寺)、「宮山遺跡」(上西条町内会)、「北大塚古墳」(西之山町内会)、「築山の榎」(国包伊勢講)の指定文化財保存管理事業(事業費計640千円)に対して補助を行った。補助額計320千円。

また、兵庫県の文化財補助事業として、鶴林寺が事業主体として実施した兵庫県指定文化財の鶴林寺三重塔外防災施設整備事業(事業費5,456千円)に対して随伴補助を行った。補助額1,713千円。

3 市内遺跡事業(国庫補助事業)

国の文化財補助金事業として、市内遺跡等について埋蔵文化財の記録の作成又は保存に必要な資料を得るために行う発掘調査及び発掘された資料の保存整理等を行う事業を実施した。内容は、開発に伴う確認調査、試掘調査、分布調査である。事業費6,000千円(国費3,000千円、県費1,500千円)。

4 本岡家住宅防災設備整備事業(県費補助事業)

県の文化財補助金事業として、県指定文化財本岡家住宅の火災通報設備の整備を行った。事業費206千円(県費103千円)。

5 文化財説明板及び標柱の状況

市内の文化財についての情報発信、周知徹底のため、文化財の説明板及び標柱の設置を行っている。平成27(2015)年度は、下記のとおり文化財3件の説明板と1件の標柱を立替えた。平成27年度末現在の状況は、説明板182基と標柱150本である。

説明板の立替え 3件「常楽寺の層塔、宝塔、石棺」「宮前地藏堂の石棺仏と石棺」「高畑の五輪塔」
標柱の立替え 1件「構の石棺」

6 本岡家住宅の公開及び活用

平成10(1998)年に八幡町下村から東神吉町天下原の少年自然の家の敷地内に移築保存された県指定有形文化財本岡家住宅については、事前に見学の予約を受けて、水曜日の午前10時と午後2時、日曜日の午後2時に見学者を受け入れている。また、少年自然の家では、無料散策日に公開している。

平成27(2015)年度の本岡家住宅の利用状況は、表4のとおりである。

また、毎年、5月5日の「こどもの日特別公開」及び「ひょうごヘリテージマンス」に合わせて「秋の特別公開」を行っている。平成27年度の秋の特別公開は、11月25日から11月29日まで実施した。

表4 平成27年度本岡家住宅月別利用者数一覧

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数(人)	3	269	6	87	3	173	490	647	150	99	59	66	2,052

7 加古川市文化財講座の開催

市民の皆様へ、加古川地域の歴史や文化財について理解を深めていただき、文化財保護意識の高揚を図るため、毎年秋季に文化財講座を開催している。

平成27(2015)年度の文化財講座の内容は以下のとおりである。

第1回文化財講座

日時：12月5日(土)午後2時から午後4時まで

場所：加古川市立青少年女性センター 大会議室
 講師：原田昌浩氏（立命館大学大学院博士課程後期）
 演題：「埴輪からみた古墳時代の加古川 - 人塚古墳の調査成果から - 」
 参加者：64名

第2回文化財講座

日時：12月12日（土）午後2時から午後4時まで
 場所：加古川市立青少年女性センター 大会議室
 講師：森内秀造氏（元兵庫県立考古博物館学芸員）
 演題：「加古川の古代窯業」
 参加者：60名

第3回文化財講座

日時：12月19日（土）午後2時から午後4時まで
 場所：加古川市立青少年女性センター 大会議室
 講師：渡辺 昇氏（播磨町郷土資料館学芸員）
 演題：「坂元遺跡が語る古代の加古川」
 参加者：65名

8 『文化財ニュース』の発行

市内の文化財の状況を伝え、市民の皆様の文化財保護意識の高揚を図るため、年に1回「文化財ニュース」を発行し、市内全戸配布している。平成27（2015）年度は「文化財ニュース」59号を発行した。

9 文化財関係団体との連携

「加古川市文化財保護協会」、「加古川文化遺産活性化実行委員会」、「加古川市文化財ガイドボランティア」など、文化財の保護又は活用を行っている団体の活動に対して必要に応じて協力している。

10 資料の貸出、写真資料の貸出及び掲載承諾

平成27（2015）年度は、表5のとおり資料の貸出し、写真資料の貸出し及び掲載を承諾した。

表5 平成27年度資料貸出、写真資料貸出及び掲載承諾一覧

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
1	貸出	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日	溝之口遺跡出土弥生土器	6点	明石市立文化博物館	常設展での展示
2	貸出	平成27年4月1日 ～ 平成28年3月31日	行者塚古墳発掘調査資料等	217点	大手前大学	行者塚古墳の発掘調査資料の整理
			行者塚古墳出土円筒埴輪・形象埴輪・土師器	約100点		
3	貸出	平成27年4月4日 ～ 平成27年7月5日	石守廃寺出土軒丸瓦	2点	兵庫県立考古博物館	特別展「地震・噴火・火災・洪水－災害復興の3万年史－」での展示
			石守廃寺出土風鐸	2点		
			西条廃寺出土軒丸瓦	2点		
			野口廃寺出土軒丸瓦	2点		

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
4	貸出	平成27年6月10日 ～ 平成27年6月18日	栗本青蘿関連写真	7点	加古川市産業経済部 観光振興課	「1日だけの俳人青蘿小展と講演会」での展示
5	貸出	平成27年6月22日 ～ 平成28年3月31日	スピーカー	1点	加古川総合文化センター	常設展での追加展示
			ミシン	1点		
			餅つき臼	1点		
			滑車とバケツ一式	1点		
			石油ランプ	1点		
6	貸出・ 掲載承諾	平成27年7月16日 ～ 平成27年12月9日	行者塚古墳関連写真フィルム	10点	滋賀県立安土城考古 博物館	特別展「倭五王海を渡る」で の展示、印刷物等への掲載
			行者塚古墳出土甲冑形埴輪	1点		
		平成27年10月7日 ～ 平成27年12月9日	行者塚古墳出土金銅製帯金具	2点		
			行者塚古墳出土巴形銅器	2点		
			行者塚古墳出土長方形鏡板付轆	1点		
			行者塚古墳出土長方形鏡板付轆 (復元品)	1点		
			行者塚古墳出土鉄鋌	1点		
行者塚古墳出土鉄鋌(復元品)	10点					
7	貸出・ 掲載承諾	平成27年7月30日 ～ 平成27年8月18日	「報恩律寺七堂図」写真フィルム	1点	株式会社小学館	『日本美術全集』第11巻への 掲載
8	貸出	平成27年8月6日 ～ 平成27年12月6日	運転安全綱領	1点	播磨町郷土資料館	特別展「多木のガッタンと兵 庫のローカル線-懐かしの別 府鉄道-」での展示
			安全運転規範準拠	1点		
			時刻表(別府港駅)	1点		
			駅名表示板(別府港駅)	2点		
			表示板(駅長室)	1点		
			表示板(定期券拝見)	1点		
			桶(別府5)	1点		
			車掌鞆	1点		
制帽	1点					
9	貸出・ 掲載承諾	平成27年8月13日 ～ 平成27年10月31日	行者塚古墳関連写真フィルム	3点	奈良県立橿原考古学 研究所附属博物館	特別展「人のかたちの埴輪は なぜ創られたのか」での展 示、印刷物等への掲載
			行者塚古墳出土高杯	1点		
		平成27年9月15日 ～ 平成27年12月11日	行者塚古墳出土笱形土器	1点		
			行者塚古墳出土鳥形土製品	1点		
			行者塚古墳出土魚形土製品	1点		
			行者塚古墳出土菱の実状土製品	4点		
			行者塚古墳出土アケビ状土製品	5点		
			行者塚古墳出土切り身状土製品	2点		
行者塚古墳出土餅状土製品	4点					
10	貸出	平成27年8月21日 ～ 平成27年8月25日	里古墳発掘調査資料等	3点	個人	学術研究
11	掲載承諾	平成27年9月11日	西条廃寺関連写真	1点	韓国国立公州博物館	特別展「百済以降の百済」で の印刷物等への掲載
12	貸出	平成27年10月1日 ～ 平成28年1月20日	カンス塚古墳出土金製垂飾付耳 飾	2点	姫路市埋蔵文化財セ ンター	特別展「宮山古墳」での展示
13	掲載承諾	平成27年11月17日	行者塚古墳関連写真	1点	株式会社吉川弘文館	『神と死者の考古学-古代の まつりと信仰-』への掲載

番号	区分	期間	資料の名称	数量	依頼者	目的
14	掲載承諾	平成27年11月19日	行者塚古墳関連写真	1点	堺市	『新たな百舌鳥古墳群像をめぐって』への掲載
15	掲載承諾	平成27年12月1日	行者塚古墳関連写真	1点	加古川市産業経済部 観光振興課	ホームページへの掲載

11 資料調査の受入れ

平成27（2015）年度は、表6のとおり資料調査を受け入れた。

表6 平成27年度資料調査受入れ一覧

番号	年月日	調査者	所属	資料		目的
				遺跡	遺物	
1	平成27年5月1日	個人	大阪大学	長慶寺山1号墳	鉄剣、鉄槍、鉄鏃	論文執筆
2	平成27年6月20日	個人（2名）		荒木家文書、大西甚一平氏文書		学術研究
3	平成27年7月7日	個人	播磨町郷土資料館	別府鉄道関連資料		特別展準備
4	平成27年7月30日	個人	奈良県立橿原考古学研究所	行者塚古墳	ミニチュア土製品	特別展準備
5	平成27年8月5日	個人	専修大学	池尻2号墳 カンス塚古墳	須恵器	学術研究
6	平成27年8月13・14日	個人		大歳家文書、荒木家文書		学術研究

12 講師の派遣等

市民の皆様にも、地域の歴史および文化の理解を深めていただき、また、文化財保護意識の高揚につながるよう、文化財に係る講演会、見学会等の事業に対して講師の派遣等を行っている。平成27（2015）年度における講師の派遣等については表7のとおりである。

表7 平成27年度講師派遣等一覧

番号	年月日	派遣職員	派遣先	内容
1	平成27年4月28日	西森忠幸	神野小学校	行者塚古墳の案内・解説
2	平成27年9月19日	宮本佳典	東加古川公民館	講演「筑紫大道と中世加古川の文化財」
3	平成27年9月23日	宮本佳典	畑公民館	講演「畑の歴史と文化財」及び文化財の解説
4	平成27年9月24日	宮本佳典	いなみ野学園	講演「東播磨の仏教文化」
5	平成27年12月18日	宮本佳典	兵庫大学	講演「文化歴史遺産とまちおこし」
6	平成28年1月18日	宮本佳典	いなみ野学園	講演「仏像の見方－東播磨を中心に－」

13 「トライやる・ウィーク」の受入れ

兵庫県では、平成10（1998）年度から公立中学校2年生を対象に、生徒たちが地域での様々な体験活動を通じて働くことの意義や楽しさを実感するとともに、生徒の自主性や自立性等を育むことを目的とした「トライやる・ウィーク」を実施している。

文化財調査研究センターではその実施当初から生徒の受入れを行っており、平成27（2015）年度は6月1日から5日まで加古川市立平岡中学校の生徒3名を受け入れた。体験内容は、博物館施設等の見学、古墳や寺社仏閣等における文化財巡視、本岡家住宅の清掃、土器の洗浄や接合等の埋蔵文化財の資料整理等である。

第3章 西条古墳群史跡整備事業

1 総説

加古川市では、昭和48（1973）年に国史跡に指定された西条古墳群（行者塚古墳、人塚古墳、尼塚古墳）について、平成6（1994）年から史跡整備事業を継続して行っており、平成27（2015）年度は人塚古墳の整備を実施した。整備の内容は、墳丘に繁茂している樹木の伐採と、古墳南側と西側におけるエントランス整備等である。平成27年度の事業費6,400千円（国費3,200千円、県費1,600千円）。

樹木の伐採については、倒木の危険があるもの、立ち枯れや病害を受けているもの、墳丘の見とおしを悪くしているものなどを対象として、古墳の形状を見やすくするために81本の樹木を伐採した。

エントランス整備は平成26（2014）年度から実施しており、平成27年度は南側エントランスに西条古墳群の案内板を設置するとともに、南側・西側の各エントランスから墳丘外縁をめぐる園路に上るための階段を設置した（写真62）。このほか、人塚古墳の東側に隣接している県史跡西条廃寺の出入口付近に整備事業の概要を記した説明板を設置した（写真63）。

なお、史跡整備事業は平成28年度をもって完了しており、その詳細については平成28年3月刊行の『史跡西条古墳群保存整備事業報告書』（加古川市文化財調査報告26）において詳述されている。

2 西条古墳群史跡整備委員会

国史跡西条古墳群の保存及び活用のための史跡整備について意見を聞くため、加古川市西条古墳群史跡整備委員会を置いている。平成27年度の会議開催時の委員は3名で、氏名・所属等は、以下のとおりである。

委員長	不在	
副委員長	前田敏郎	地元町内会長
委員	高瀬要一	元奈良文化財研究所文化遺産部長
委員	菱田哲郎	京都府立大学教授

平成27年度は、5月25日に会議を開催し、工事計画など西条古墳群史跡整備事業の今後の計画について、意見を聴取した。（宮本・平尾）



写真62 人塚古墳南側エントランス



写真63 人塚古墳東側説明板

第4章 文化財審議委員会

1 委員

加古川市文化財の保護に関する条例に基づき、文化財の保存及び活用について審議するための附属機関として文化財審議委員会を置いている。平成27年度の委員は8名で、氏名・主な専門・所属等は、以下のとおりである。

委員長	好崎泰州	神道文化、地域史	尾上神社宮司
副委員長	茂渡俊慶	仏教文化、地域史	鶴林寺住職
委員	魚津知克	考古学、考古資料	大手前大学史学研究所主任
委員	金子哲	歴史、中世史	兵庫大学教授
委員	西村恭子	民俗、民話、地域史	作家
委員	東野アドリアナ	建造物	明石工業高等専門学校准教授
委員	藤原喜美子	民俗行事、民俗資料	流通科学大学准教授
委員	藤原良夫	石造美術	神戸市文化財基本調査委員会調査委員

2 会議

第1回	日時	平成27年8月26日（水）午後2時から4時10分まで
	場所	教育委員室（加古川市役所新館8階）、溝之口遺跡発掘調査現場
	出席者	好崎委員長、茂渡副委員長、東野委員、藤原喜美子委員、藤原良夫委員、
	内容	溝之口遺跡発掘調査現地視察 平成26年度文化財関係事業及び決算について（報告） 平成27年度文化財関係事業及び予算について（報告） その他、指定文化財候補及び行政に係る意見交換
第2回	日時	平成27年12月21日（月）午後2時から3時30分まで
	場所	青少年女性センター301会議室
	出席者	好崎委員長、茂渡副委員長、魚津委員、金子委員、西村委員、 藤原喜美子委員、藤原良夫委員
	内容	平成27年度加古川市指定文化財候補についての審議 指定文化財等の状況について（オオサンショウウオの保護、史跡西条古墳群 史跡整備事業、本岡家住宅尾根小修理事業、鶴林寺防災設備整備事業） 文化財関係事業について（文化財講座、本岡家住宅秋の特別公開、道路整備 事業に伴う発掘調査、ほ場整備事業に伴う発掘調査）
第3回	日時	平成28年1月28日（木）午後1時30分から4時まで
	場所	報恩寺、西之山地蔵堂現地、青少年女性センター301会議室
	出席者	好崎委員長、茂渡副委員長、魚津委員、金子委員、西村委員、 藤原喜美子委員、藤原良夫委員、
	内容	平成27年度加古川市指定文化財候補についての現地調査及び審議 2件の指定について指定推薦の答申議決 市指定文化財の種別変更について 鶴林寺文化財消防訓練報告

第5章 文化財関係の事務処理

1 埋蔵文化財事務

(1) 埋蔵文化財包蔵地の照会

平成27（2015）年度における埋蔵文化財包蔵地の照会件数は2158件であった。その内訳は、事業者による計画前の照会が1842件、建設予定地に関する事前合議が186件、開発事業に関する事前協議等が130件であった。

(2) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘届・通知

平成27年度における文化財保護法第93・94条に基づく埋蔵文化財発掘届出・通知の処理件数は208件であった（表8）。このうち、第93条に基づく発掘届出は201件、第94条に基づく発掘通知は7件である。工事の目的の内訳は、道路1件、住宅48件、個人住宅77件、店舗1件、個人住宅兼店舗1件、その他建物4件（うち1件は宅地造成も含む）、宅地造成19件、水道・ガス・電気46件、その他開発11件である。

表8 平成27年度埋蔵文化財発掘届・通知一覧

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
1	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	宅地造成	加古川町大野590番1	事業者	確認調査 慎重工事	5月20日	前年度 加教文第2642号
2	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	宅地造成	加古川町大野685番3	事業者	慎重工事		前年度 加教文第2643号
3	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	宅地造成	加古川町大野685番1	事業者	慎重工事		前年度 加教文第2644号
4	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	宅地造成	加古川町大野713番1	事業者	確認調査 慎重工事	5月21・22日	前年度 加教文第2645号
5	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成	野口町坂元北四丁目8・10番	事業者	慎重工事		前年度 加教文第2844号
6	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口80番12・17	事業者	慎重工事		前年度 加教文第2872号
7	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目19番3	個人	慎重工事		前年度 加教文第2882号
8	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口79番7	事業者	慎重工事		前年度 加教文第3019号
9	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口80番11・16	事業者	慎重工事		前年度 加教文第3020号
10	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口72番15	事業者	慎重工事		前年度 加教文第3021号
11	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口83番29	事業者	慎重工事		前年度 加教文第3022号
12	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口72番18	事業者	慎重工事		前年度 加教文第3023号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
13	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口79番5・6	事業者	慎重工事		前年度 加教文第3024号
14	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	その他建物	尾上町口里551番1	個人	確認調査 慎重工事	4月8日	前年度 加教文第3056号
15	砂部遺跡 集落跡 縄文～奈良	個人住宅	東神吉町砂部411番1	個人	慎重工事		前年度 加教文第3058号
16	樋之口遺跡 集落跡 弥生	ガス	尾上町養田350番1地先	事業者	工事立会		加教文第40号
17	砂部遺跡 集落跡 縄文～奈良	ガス	東神吉町神吉195番5地先	事業者	工事立会		加教文第52号
18	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口333番1の一部、 332番5・6の各一部	個人	慎重工事		加教文第94号
19	稲屋構居跡 城館跡 中世	住宅	加古川町稲屋779番24	事業者	慎重工事		加教文第108号
20	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元1070番2	事業者	確認調査 慎重工事	4月16日	加教文第110号
21	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目6番2	個人	慎重工事		加教文第160号
22	高田構居跡 城館跡 中世	下水道	神野町神野979番地先	加古川市上下水道局	確認調査 慎重工事	9月16・18日	加教文第181号
23	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目67番	個人	慎重工事		加教文第183号
24	平野遺跡 集落跡 弥生	ガス	野口町良野1649番2地先	事業者	工事立会		加教文第192号
25	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北5番40地先	事業者	工事立会		加教文第204号
26	尾上構居跡 城館跡 中世	個人住宅	尾上町長田312番1	個人	確認調査 慎重工事	4月16日	加教文第214号
27	今福遺跡 集落跡 弥生	宅地造成	尾上町今福355番、358番ほか	事業者	確認調査 慎重工事	10月23日	加教文第219号
28	今福遺跡 集落跡 弥生	宅地造成	尾上町今福341番1・8、342番	事業者	確認調査 慎重工事	4月22日	加教文第245号
29	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口333番A	事業者	慎重工事		加教文第250号
30	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北二丁目40番5	事業者	慎重工事		加教文第251号
31	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里515番5	個人	慎重工事		加教文第267号
32	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口73番9	事業者	慎重工事		加教文第268号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
33	今福遺跡 集落跡 弥生	宅地造成及び その他建物	尾上町今福346番1、347番9	個人	確認調査 慎重工事	5月26日	加教文第303号
34	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北五丁目40番1	個人	慎重工事		加教文第333号
35	砂部遺跡 集落跡 縄文～奈良	ガス	東神吉町神吉543番1地先	事業者	工事立会		加教文第335号
36	尾上構居跡 城館跡 中世	ガス	尾上町長田423番4地先	事業者	工事立会		加教文第347号
37	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北二丁目41番1地先	事業者	工事立会		加教文第351号
38	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	ガス	野口町良野603番1地先	事業者	工事立会		加教文第369号
39	高田構跡跡 城館跡 中世	ガス	神野町神野952～974番地先	事業者	工事立会		加教文第389号
40	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	東神吉町西井ノ口15番5～40番2 地先	事業者	工事立会		加教文第390号
41	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里511番3	個人	慎重工事		加教文第404号
42	升田遺跡 集落跡 奈良	個人住宅	東神吉町升田910番6	個人	慎重工事		加教文第449号
43	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	個人住宅	加古川町美乃利553番4～6の各 一部	個人	慎重工事		加教文第528号
44	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口2番1・4	個人	慎重工事		加教文第529号
45	今福遺跡 集落跡 弥生	宅地造成	尾上町今福338番の一部、341番6 の一部	事業者	確認調査 慎重工事	6月4日	加教文第533号
46	具平塚遺跡 散布地 弥生	個人住宅	野口町良野522番4	個人	慎重工事		加教文第543号
47	加古川城跡 城館跡 中世	寺院	加古川町本町312～314番	宗教法人	確認調査 慎重工事	2月18日	加教文第544号
48	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成	野口町坂元北二丁目32番2	事業者	工事立会		加教文第553号
49	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	個人住宅兼店 舗	野口町良野35番1	事業者	確認調査 工事立会	6月9～11、 18・19日	加教文第554号
50	今福遺跡 集落跡 弥生	宅地造成	尾上町今福345番1	事業者	慎重工事		加教文第602号
51	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口80番13・18	事業者	慎重工事		加教文第603号
52	野口廃寺 社寺跡 奈良	宅地造成	野口町野口352番3、353番、350 番10	事業者	確認調査 慎重工事	8月18日	加教文第624号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
53	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口41番7	個人	確認調査 慎重工事	7月27日	加教文第626号
54	長砂遺跡 集落跡 弥生	下水道	野口町長砂755番1	加古川市上下水道局	確認調査 慎重工事	8月26日	加教文第631号
55	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	道路	加古川町美乃利・大野地内	加古川市長	確認調査 発掘調査	5月13～15・19日	加教文第633号
56	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北三丁目32番3	個人	慎重工事		加教文第661号
57	観音寺城跡 城館跡 中世	個人住宅	志方町志方町1109番	個人	確認調査 慎重工事	7月23日	加教文第662号
58	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里515番7	個人	慎重工事		加教文第663号
59	尾上構居跡 城館跡 中世	住宅	尾上町長田485番22	事業者	慎重工事		加教文第693号
60	細田構居跡 城館跡 中世	個人住宅	野口町良野184番7	個人	慎重工事		加教文第697号
61	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北二丁目32番2地先	事業者	工事立会		加教文第698号
62	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口363番32	個人	慎重工事		加教文第705号
63	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口79番10	事業者	慎重工事		加教文第713号
64	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北五丁目40番2	個人	慎重工事		加教文第726号
65	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北四丁目29番2	事業者	慎重工事		加教文第727号
66	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口346番4	個人	慎重工事		加教文第744号
67	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利108番8	個人	慎重工事		加教文第746号
68	古大内遺跡 その他の遺跡 奈良	ガス	野口町古大内538番地先	事業者	工事立会		加教文第756号
69	今福遺跡 集落跡 弥生	ガス	尾上町今福341～342番地先	事業者	慎重工事		加教文第757号
70	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口169番10	個人	工事立会		加教文第776号
71	中西廃寺 社寺跡 奈良	下水道	西神吉町中西272番地先	加古川市上下水道局	工事立会		加教文第791号
72	中西台地遺跡 集落跡 弥生～中世	下水道	東神吉町神吉1034番4ほか	加古川市上下水道局	確認調査 慎重工事	10月13日	加教文第792号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
73	古大内遺跡 その他の遺跡 奈良	個人住宅	野口町古大内422番6	個人	確認調査 慎重工事	7月8日	加教文第795号
74	平津構居跡 城館跡 中世	住宅	米田町平津551番5	事業者	慎重工事		加教文第821号
75	平津構居跡 城館跡 中世	住宅	米田町平津504番15	事業者	慎重工事		加教文第822号
76	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口130番1	事業者	慎重工事		加教文第823号
77	尾上遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町長田280番3・23・34、251番6	個人	確認調査 慎重工事	7月7日	加教文第847号
78	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口333番12～14の一部ほか	個人	慎重工事		加教文第902号
79	尾上遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町長田151番4	個人	慎重工事		加教文第913号
80	古大内遺跡 その他の遺跡 奈良	個人住宅	野口町古大内450番1・4	個人	確認調査 慎重工事	7月24日	加教文第956号
81	具平塚遺跡 散布地 弥生	個人住宅	野口町良野522番35	個人	慎重工事		加教文第957号
82	具平塚遺跡 散布地 弥生	個人住宅	野口町坂元84番9、75番9・18	個人	慎重工事		加教文第958号
83	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	造成工事	加古川町美乃利113番1ほか	事業者	確認調査 慎重工事	11月18・19日	加教文第959号
84	鶴林寺 社寺跡 平安～中世	消火設備設置	加古川町北在家424番	宗教法人	工事立会		加教文第1036号
85	今福遺跡 集落跡 弥生	ガス	尾上町今福338番地先	事業者	慎重工事		加教文第1041号
86	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利108番5	個人	慎重工事		加教文第1043号
87	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口334番1・3～6	事業者	慎重工事		加教文第1044号
88	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	ガス	加古川町大野956番地先	事業者	慎重工事		加教文第1045号
89	平津構居跡 城館跡 中世	住宅	米田町平津515番17	事業者	慎重工事		加教文第1046号
90	観音寺城跡 城館跡 中世	個人住宅	志方町志方町1071番4・8	個人	確認調査 慎重工事	10月20日	加教文第1049号
91	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北五丁目43番5・6	個人	慎重工事		加教文第1064号
92	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北五丁目15番3	事業者	慎重工事		加教文第1065号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
93	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	個人住宅	加古川町大野553番6	個人	慎重工事		加教文第1085号
94	具平塚遺跡 散布地 弥生	住宅	野口町良野518番6、522番32、 542番28・64	事業者	確認調査 慎重工事	8月8日	加教文第1086号
95	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北五丁目13番3	個人	慎重工事		加教文第1093号
96	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口116番6	個人	確認調査 慎重工事	9月14日	加教文第1154号
97	平津構居跡 城館跡 中世	住宅	米田町平津551番10	事業者	慎重工事		加教文第1168号
98	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町美乃利108番8地先	事業者	慎重工事		加教文第1229号
99	尾上構居跡 城館跡 中世	住宅	尾上町長田485番18・27	事業者	慎重工事		加教文第1234号
100	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町西井ノ口229番10	個人	確認調査 慎重工事	9月10日	加教文第1235号
101	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利112番5	事業者	確認調査 慎重工事	8月27日	加教文第1259号
102	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	屋外看板設置	野口町良野23番	事業者	工事立会		加教文第1274号
103	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元1080番	個人	慎重工事		加教文第1324号
104	西牧遺跡 集落跡 縄文～弥生	個人住宅	志方町西牧665番	個人	慎重工事		加教文第1325号
105	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口182番2地先	事業者	工事立会		加教文第1326号
106	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	下水道	東神吉町砂部318番2地先ほか	加古川市上下水道局	工事立会		加教文第1327号
107	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成	野口町坂元北二丁目26番	事業者	確認調査 慎重工事	12月1日	加教文第1329号
108	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口332番9、333番、 333番11・12	個人	慎重工事		加教文第1332号
109	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里515番3	個人	工事立会		加教文第1334号
110	長砂遺跡 集落跡 弥生	ガス	野口町長砂765番1～3地先	事業者	工事立会		加教文第1365号
111	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北五丁目13番4	個人	慎重工事		加教文第1383号
112	尾上構居跡 城館跡 中世	住宅	尾上町長田485番14	事業者	慎重工事		加教文第1412号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
113	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目40番1	個人	慎重工事		加教文第1417号
114	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北二丁目40番1地先	事業者	慎重工事		加教文第1418号
115	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口70番1地先	事業者	慎重工事		加教文第1419号
116	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	駐車場	加古川町大野646番1	個人	慎重工事		加教文第1451号
117	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町美乃利108番5地先	事業者	慎重工事		加教文第1459号
118	古大内遺跡 その他の遺跡 奈良	ガス	野口町古大内422番6地先	事業者	慎重工事		加教文第1460号
119	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	東神吉町西井ノ口218番5～12地先	事業者	工事立会		加教文第1494号
120	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北二丁目51番地先	事業者	工事立会		加教文第1495号
121	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口73番9地先	事業者	慎重工事		加教文第1496号
122	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口351番1地先	事業者	慎重工事		加教文第1497号
123	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町砂部278番19	個人	慎重工事		加教文第1508号
124	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	宅地造成	尾上町口里524番1・2	事業者	確認調査 慎重工事	10月6日	加教文第1511号
125	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町美乃利350番30	事業者	慎重工事		加教文第1512号
126	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口115番16	事業者	慎重工事		加教文第1548号
127	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口400番1	個人	確認調査 慎重工事	1月14日	加教文第1610号
128	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町砂部354番16	個人	確認調査 慎重工事	10月22日	加教文第1611号
129	古大内遺跡 その他の遺跡 奈良	個人住宅	野口町古大内450番1・4の一部	個人	慎重工事		加教文第1627号
130	大野遺跡 集落跡 平安～中世	個人住宅	加古川町大野565番18・23	個人	慎重工事		加教文第1628号
131	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口83番31	事業者	慎重工事		加教文第1632号
132	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口72番19	事業者	慎重工事		加教文第1633号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
133	大塚遺跡 集落跡 奈良～中世	ガス	野口町良野35番1地先	事業者	工事立会		加教文第1679号
134	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	宅地造成	野口町坂元北四丁目8番	事業者	工事立会		加教文第1696号
135	具平塚遺跡 散布地 弥生	ガス	野口町良野542番地先	事業者	慎重工事		加教文第1708号
136	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口363番31	個人	慎重工事		加教文第1752号
137	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	ガス	尾上町口里727番9地先	事業者	工事立会		加教文第1760号
138	大野遺跡 集落跡 平安～中世	個人住宅	加古川町大野565番7・13	個人	慎重工事		加教文第1766号
139	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北二丁目32番2の一部	事業者	慎重工事		加教文第1780号
140	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口332番1・5・8	個人	慎重工事		加教文第1782号
141	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北二丁目26番地先	事業者	工事立会		加教文第1797号
142	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	屋外看板設置	加古川町大野960番1	事業者	工事立会		加教文第1841号
143	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利644番8	個人	慎重工事		加教文第1862号
144	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北二丁目32番2の一部	事業者	慎重工事		加教文第1936号
145	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北五丁目13番2	個人	慎重工事		加教文第1937号
146	具平塚遺跡 散布地 弥生	住宅	野口町坂元75番22	事業者	慎重工事		加教文第1940号
147	砂部遺跡 集落跡 縄文～奈良	個人住宅	東神吉町神吉547番8の一部	個人	確認調査 慎重工事	12月15日	加教文第2002号
148	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目51番3	個人	慎重工事		加教文第2003号
149	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	宅地造成	加古川町溝之口129番1ほか、里道	事業者	確認調査 慎重工事	2月9日	加教文第2005号
150	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口72番16	事業者	慎重工事		加教文第2024号
151	今福遺跡 集落跡 弥生	住宅	尾上町今福342番5	事業者	慎重工事		加教文第2042号
152	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	宅地造成	加古川町溝之口69番1	事業者	慎重工事		加教文第2043号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
153	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北二丁目40番4	個人	慎重工事		加教文第2044号
154	山之上遺跡 散布地 旧石器	ガス	平岡町山之上684番33地先	事業者	工事立会		加教文第2059号
155	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	その他建物	加古川町美乃利310番2・3	個人	慎重工事		加教文第2078号
156	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町美乃利109番26	個人	工事立会		加教文第2079号
157	粟津大年遺跡 集落跡 中世	個人住宅	加古川町木村21番1の一部・15の一部	個人	慎重工事		加教文第2105号
158	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口79番8	事業者	慎重工事		加教文第2109号
159	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町西井ノ口206番3	個人	工事立会		加教文第2113号
160	具平塚遺跡 散布地 弥生	ガス	野口町良野563番6地先	事業者	慎重工事		加教文第2114号
161	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口131番地先	事業者	工事立会		加教文第2115号
162	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町美乃利126番1～113番1地先	事業者	工事立会		加教文第2116号
163	東神吉遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	東神吉町砂部354番21	個人	確認調査 慎重工事	2月17日	加教文第2124号
164	平津構居跡 城館跡 中世	住宅	米田町平津551番7	事業者	慎重工事		加教文第2132号
165	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口182番2	個人	慎重工事		加教文第2136号
166	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口63番8の一部、69番1の一部、70番4の一部	事業者	慎重工事		加教文第2156号
167	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里635番8	個人	慎重工事		加教文第2157号
168	尾上構居跡 城館跡 中世	個人住宅	尾上町長田485番16・25	個人	慎重工事		加教文第2187号
169	尾上構居跡 城館跡 中世	住宅	尾上町長田485番20	事業者	慎重工事		加教文第2198号
170	古大内遺跡 その他の遺跡 奈良	ガス	野口町古大内428番3～450番1地先	事業者	工事立会		加教文第2222号
171	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北五丁目12番地先	事業者	工事立会		加教文第2240号
172	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口116番11・7、115番11・12	個人	慎重工事		加教文第2252号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
173	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口7番1地先	事業者	工事立会		加教文第2281号
174	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口331番1、332番8	個人	慎重工事		加教文第2282号
175	尾上構居跡 城館跡 中世	個人住宅	尾上町長田493番、502番の一部	個人	慎重工事		加教文第2292号
176	平野遺跡 集落跡 弥生	住宅	加古川町平野440番、441番	事業者	工事立会		加教文第2294号
177	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口79番9	事業者	慎重工事		加教文第2306号
178	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	住宅	野口町坂元北四丁目30番	事業者	慎重工事		加教文第2330号
179	中津構居跡 城館跡 中世	個人住宅	加古川町中津106番17～19、107番4	個人	工事立会		加教文第2341号
180	大野遺跡 集落跡 平安～中世	個人住宅	加古川町大野526番2	個人	慎重工事		加教文第2349号
181	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	個人住宅	加古川町大野607番3、608番2	個人	工事立会		加教文第2351号
182	粟津大年遺跡 集落跡 中世	ガス	加古川町木村21～24番地先	事業者	工事立会		加教文第2352号
183	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口334番3・4・7～10	事業者	工事立会		加教文第2378号
184	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口130番4地先	事業者	慎重工事		加教文第2381号
185	具平塚遺跡 散布地 弥生	ガス	野口町良野521番6～8地先	事業者	慎重工事		加教文第2382号
186	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	個人住宅	尾上町口里512番8	個人	慎重工事		加教文第2386号
187	神野北山遺跡 生産遺跡 古墳	宅地造成	神野町神野1819番2ほか	兵庫県住宅供給公社	慎重工事		加教文第2397号
188	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	ガス	野口町坂元北二丁目40番4地先	事業者	慎重工事		加教文第2418号
189	北在家遺跡 集落跡 弥生～古墳	店舗	野口町良野409番1	個人	確認調査 慎重工事	2月9日	加教文第2420号
190	尾上構居跡 城館跡 中世	住宅	尾上町長田485番17・26	事業者	慎重工事		加教文第2431号
191	細田構居跡 城館跡 中世	個人住宅	野口町良野1004番の一部	個人	慎重工事		加教文第2489号
192	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北五丁目43番7	個人	慎重工事		加教文第2513号

番号	遺跡	工事の目的	所在地	届出者	指導事項	調査期間	文書番号
193	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口69番1地先	事業者	工事立会		加教文第2518号
194	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町美乃利109番26地先	事業者	慎重工事		加教文第2519号
195	具平塚遺跡 散布地 弥生	住宅	野口町坂元75番20	事業者	慎重工事		加教文第2524号
196	浜の宮遺跡 集落跡 弥生～古墳	宅地造成	尾上町口里517番1	事業者	慎重工事		加教文第2553号
197	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	その他建物	加古川町大野862番の一部、863番5の一部	事業者	確認調査 慎重工事	3月2日	加教文第2560号
198	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	個人住宅	加古川町溝之口130番1	個人	慎重工事		加教文第2565号
199	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元北三丁目22番1	個人	慎重工事		加教文第2631号
200	岸城跡 城館跡 中世	個人住宅	西神吉町岸344番5	個人	慎重工事		加教文第2664号
201	具平塚遺跡 散布地 弥生	住宅	野口町坂元75番8・17、84番10	事業者	慎重工事		加教文第2715号
202	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口130番1地先	事業者	慎重工事		加教文第2729号
203	一色構居跡 城館跡 中世	ガス	平岡町一色62番1～17番1地先	事業者	工事立会		加教文第2731号
204	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	ガス	加古川町溝之口184番3地先	事業者	慎重工事		加教文第2767号
205	大野遺跡 集落跡 平安～中世	個人住宅	加古川町大野526番8	個人	慎重工事		加教文第2798号
206	神吉城跡 城館跡 中世	宅地造成	東神吉町神吉1337番	個人	工事立会		加教文第2841号
207	坂元遺跡 集落跡 縄文～中世	個人住宅	野口町坂元329番91、同町坂元北五丁目43番2	個人	慎重工事		加教文第2913号
208	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	住宅	加古川町溝之口334番1・3～6の各一部	事業者	工事立会		加教文第2932号

註1 調査期間は確認調査の期間であり、発掘調査及び工事立会の期間は記載していない。

(3) 文化財保護法に基づく埋蔵文化財発掘調査通知

平成27年度における文化財保護法第99条に基づく埋蔵文化財発掘調査通知件数は3件であった(表9)。

表9 平成27年度埋蔵文化財発掘調査通知一覧

番号	遺跡	工事の目的	所在地	調査概要	調査面積	調査期間	発掘調査通知 文書番号
1	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	中津水足線外道 路改良事業	加古川町溝之口・美 乃利地内	周溝墓?・溝・ピット、縄文土 器・弥生土器・土師器・須恵器	800㎡	8月11日～ 11月26日	加教文第1221号
2	美乃利遺跡 集落跡 弥生～中世	中津水足線外道 路改良事業	加古川町美乃利・大 野地内	竪穴建物跡・溝・井戸・土坑・ピッ ト、弥生土器・土師器・須恵器・ 瓦・石器・鉄製品	2800㎡	11月24日～ 3月18日	加教文第1995号
3	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	宅地造成	加古川町溝之口37番 2・3・5～7、39 番、40番1	溝・ピット・水田跡、弥生土器・ 須恵器・石器・鉄製品	120㎡	1月13日～ 2月8日	加教文第2329号

(4) 埋蔵文化財発見届

平成27年度における埋蔵文化財発見届件数は3件であった(表10)。

表10 平成27年度埋蔵物発見届一覧

番号	遺跡	工事の目的	所在地	発見者	発見物の名称及び数量	届出月日	文書番号
1	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	中津水足線外道 路改良事業	加古川町溝之口・美 乃利地内	加古川市教育 委員会	弥生土器・土師器・須恵器 収納コンテナ 57箱	1月6日	加教文第2246号
2	溝之口遺跡 集落跡 弥生～平安	宅地造成	加古川町溝之口37番 2・3・5～7、39 番、40番1	加古川市教育 委員会	弥生土器・土師器・須恵器 収納コンテナ 4箱	3月23日	加教文第2846号
3	美乃利遺跡 集落跡 弥生～平安	中津水足線外道 路改良事業	加古川町美乃利・大 野地内	加古川市教育 委員会	弥生土器・土師器・須恵器 収納コンテナ 70箱	3月29日	加教文第2930号

2 指定文化財事務 史跡等の現状変更許可事務処理

平成27年度における史跡等の現状変更の処理件数は1件であった(表11)。

表11 平成27年度史跡等の現状変更許可事務処理一覧

番号	史跡名	工事の目的	所在地	届出者	変更概要	期間	現状変更終了 報告文書番号
1	西条古墳群 人塚古墳	史跡整備工事	山手2丁目1700-100、 1700-103、1700-111	加古川市教育 委員会	人塚古墳の樹木81本の伐採	7月10日～ 12月15日	加教文第2269号

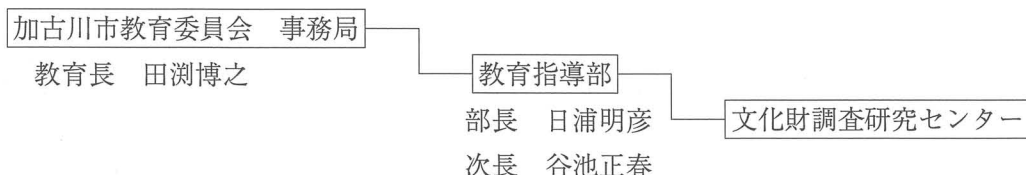
(宮本・平尾)

第6章 組織、予算・決算、管理

1 文化財保護事務の体制

(1) 事務局

平成27年度における加古川市教育委員会の文化財保護事務の体制は、以下のとおりである。



(2) 職員

平成27年度における文化財調査研究センターの職員は、以下のとおりである。

所長	鶴谷 茂 (再任用職員)
副所長	宮本佳典 (学芸員)
庶務担当係長	由井 章 (教育研究所事務担当係長兼務)
主査	藤原典子 (再任用職員)
学芸員	山中リュウ
嘱託員	西森忠幸、永恵陽子 (11月5日退職)、鈴木貴久美 (7月1日着任)、 平尾英希 (3月1日着任) 嘱託員はいずれも埋蔵文化財専門員

2 予算・決算

(1) 歳入決算額 () 内は当初予算額

(款) 国庫支出金	(項) 国庫補助金	(目) 教育費国庫補助金	6,200千円 (5,200千円)
(款) 県支出金	(項) 県庫補助金	(目) 教育費県庫補助金	3,203千円 (2,702千円)
(款) 諸収入	(項) 雑入	(目) 雑入	33千円 (30千円)
計			9,436千円 (7,932千円)

(2) 歳出決算額 () 内は当初予算額、事業名の下に主な事業内容を記入

(款) 教育費	(項) 社会教育費	(目) 文化財保護費	以上共通
(事業)	文化財調査事業		7,494千円 (9,300千円)
	市内遺跡発掘調査 (国庫補助事業)		
	雁戸井地区ほ場整備事業に伴う確認調査		
	道路改良工事に伴う確認調査 ほか		
(事業)	文化財保護活動事業		6,578千円 (7,178千円)
	文化財審議委員会等開催、文化財ニュース発行、		
	文化財講座開催、文化財説明板等設置、文化財保存管理補助、		
	鶴林寺三重塔外防災設備整備補助 (県費補助事業随伴)、		
	本岡家住宅防災設備整備事業 (県費補助事業)		
	史跡及び建造物等草刈等管理、その他の文化財関係事務		
(事業)	西条古墳群史跡整備事業		6,476千円 (6,400千円)
	人塚古墳史跡整備工事、人塚古墳資料整理 (国庫補助事業)		
計			20,548千円 (22,878千円)

3 施設管理等

環境整備として、加古川市が管理する行者塚古墳、尼塚古墳、人塚古墳（以上、国史跡）、西条廃寺（県史跡）、平木橋（市指定文化財）、里古墳、西山大塚古墳、南大塚古墳、西大塚古墳、西車塚古墳の草刈等環境整備を加古川市シルバー人材センターに業務を委託して行った。

加古川市が管理する業務県指定文化財本岡家住宅について、清掃及び案内等施設管理を加古川市シルバー人材センターに、また、消防設備点検を専門業者に業務を委託して行った。

文化財説明板等設置及び環境整備として、加古川市が提供する文化財説明板等設置及び周辺の清掃等環境整備を加古川市シルバー人材センターに業務を委託して行った。

4 平成27年度業務日誌抄

- 4月6日 文化財ガイドボランティア数岡代表来所
- 5月1日 西条廃寺樹木剪定、職員による作業
- 5月5日 本岡家住宅こどもの日特別公開、箏曲柳の会コンサート使用受入
- 5月10日 人塚古墳発掘調査報告書作成検討会（その1）
- 5月15日 北播磨・東播磨地区文化財担当者会議のため加東市滝野公民館に出張（宮本、山中）
- 5月22日 加古川総合文化センター第1回アドバイザーボード出席（宮本）
- 5月25日 西条古墳群史跡整備委員会
- 5月27日 兵庫県文化財主管課連絡会議のため兵庫県立のじぎく会館に出張（宮本、山中）
- 5月29日 先進地視察のため大手前大学に出張（山中、永恵、西森）
- 6月1-5日 トライやるウィーク平岡中学校2年生3名受入
- 6月12日 滋賀県立安土城考古博物館特別展事前調査受入
- 6月23日 加古川市文化財保護協会理事会出席（鶴谷）
- 7月24日 人塚古墳発掘調査報告書作成検討会（その2）のため大手前大学に出張（西森）
- 8月11日-11月26日 溝之口遺跡発掘調査（中津水足線外道路改良事業）
- 8月26日 第1回文化財審議委員会
- 9月4日 兵庫県文化財関係事務研修のため兵庫県民会館に出張（山中）
- 9月10日 いなみ野学園有志西条廃寺清掃奉仕受入
- 9月11日 平成28年度文化財関係補助事業ヒアリング出張（鶴谷、宮本、山中）
- 9月15日 雁戸井地区ほ場整備事業に伴う埋蔵文化財調査住民説明会
- 9月28日 都市文化財保護行政連絡協議会出張（宮本）
- 9月30日、10月23・28日 本岡家住宅火災通報設備設置工事
- 10月16日 勅使塚古墳等日岡山古墳群データ調査のため武庫川女子大学出張（山中）
- 11月24日-3月18日 美乃利遺跡発掘調査（中津水足線外道路改良事業）
- 11月25日 加古川総合文化センター第2回アドバイザーボード出席（宮本）
- 12月4日 兵庫県埋蔵文化財調査成果連絡会のため兵庫県立考古博物館に出張（山中）
- 12月5日 第1回文化財講座
- 12月8・9日 オオサンショウウオ保護
- 12月12日 第2回文化財講座
- 12月19日 第3回文化財講座
- 12月21日 第2回文化財審議委員会

- 12月24日 - 2月19日 雁戸井地区ほ場整備事業に伴う確認調査
1月13日 - 2月8日 溝之口遺跡発掘調査（宅地造成工事）
1月24日 文化財防火デー鶴林寺消防訓練
1月28日 第3回文化財審議委員会
2月17日 兵庫県史跡整備協議会総会及び研修会のため姫路市の日本城郭研究センターに出張（宮本）
2月25日 教育委員会会議で平成27年度市指定文化財を指定
3月24日 国庫補助事業実績報告等のため兵庫県庁に出張（山中）
3月25日 文化財説明板立替等作業
3月27日 研究室燻蒸
3月29・30日 研究室市史資料を収蔵庫2へ移動
3月31日 文化財ニュース59号発行

（宮本）

報告書抄録

ふりがな	かこがわしぶんかざいねんぽう だいいちごう
書名	加古川市文化財年報 第1号
副書名	平成27(2015)年度
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者	宮本佳典、平尾英希
編集機関	加古川市教育委員会
所在地	〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家1224-7
発行年月日	平成30年3月30日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
おおつか 大塚遺跡	加古川市 のぐちちやう 野口町 よしの 良野35-1	28210	637	34度 45分 03秒	134度 50分 35秒	2015年6月9日 ～19日(確認調 査)、7月21日 (工事立会)	123㎡	個人住宅兼店舗建 設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
大塚遺跡	集落	中世	溝、土坑、ピット		須恵器、土師器、瓦器、磁器、 鍛冶滓			

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
みぞのくち 溝之口遺跡	加古川市 かこがわちやう 加古川町 みのり 美乃利113-1	28210	010	34度 45分 46秒	134度 50分 52秒	2015年11月 18日・19日 (確認調査)	24㎡	宅地造成工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
溝之口遺跡	集落	弥生時代	溝、土坑		弥生土器、須恵器、土師器			

所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
かんの 神野遺跡 (隣接地)	加古川市 かんのちやう 神野町 さいじやう 西条1059-1・2、 1060、1061	28210	485	34度 47分 15秒	134度 52分 57秒	2016年2月8日、 3月7・8日 (試掘調査)	131㎡	宅地造成工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
神野遺跡	集落	奈良・ 平安時代	溝、ピット		須恵器、土師器、円筒埴輪、 瓦			

加古川市文化財年報

第1号

平成27（2015）年度

平成30（2018）年3月30日発行

編集・発行 加古川市教育委員会 文化財調査研究センター
〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家1224-7
Tel 079-423-4088 Fax 079-423-8975

印刷 小野高速印刷株式会社
〒670-0933 兵庫県姫路市平野町62

